

## 和仏法律学校講義録

山崎, 覺次郎 / 谷野, 格 / 秋山, 雅之介 / 竹井, 耕一郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

1-20

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

64

(発行年 / Year)

1903-08-21



（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可） 毎月十九日（一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日廿一日廿二日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年八月二十一日發行

三十六年度 第一學年ノ二十

# 和佛法律學校講義錄

第百六拾五號

## 和佛法律學校

第一學年第二十號目次

憲

法(至三〇)(完)

法學士 竹井耕一 耶

表紙及び目次 八頁

刑法

總論(至三三)

法學士 谷野格

國際公法(戰時)(至一九三)

法學士 秋山雅之介

國際公法(局外)(至六四)

法學士 秋山雅之介

經濟

學(至四七)(完)

法學士 山崎覺次郎

表紙及び目次 十頁

雜報

○民法施行前ニ於ケル養子ノ相續○第一審判決ノ取消ト廢棄○第  
三債務者ニ屬スル不動産差押ニ關スル事

090  
1903  
1-1-20

第六十條第七十二條第二項等は九

乙 自由事項 自由事項トハ法律ヲ以テ規定シ得ル事項是ナリ但此種ニ屬  
スル事項ハ命令ヲ以テシテモ亦之ヲ規定シ得ル此事項ハ主トシテ憲法第九  
條ニ規定ス此ノ如ク法律モ命令モ共同ニ規定シ得ル範圍ナルヲ以テ本條末文  
ニ二者ノ關係ヲ定メ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ストセリ此規定ナクハ  
法律モ命令モ共同等ナル國家ノ意思ナルカ故ニ後法ハ前法ヲ改廢シ得ルノ  
原則ニ依リ互ニ相改廢シ得ヘシ然レトモ此規定アルカ爲メニ命令ヲ以テハ法  
律ヲ廢スルコト能ハサルコトト爲ルナリニ就テ論ズルニハ  
以上ノ積極の限界ナリ次ニ消極の限界即チ法律ノ規定シ得ザル限界ヲ述ヘン  
(二) 消極の限界  
甲 憲法事項 憲法事項トハ憲法カ現ニ規定スル事項ニシテ法律ハ之ヲ助  
スコト能ハサルハ無論ナリ事  
乙 勅令事項 勅令事項トハ勅令ニ非サレハ定ムルコト能ハス言フ換アル  
ハ法律ノ立入ラサル事項是ナリ此等ハ憲法第一章ニ於テ天皇カ法律ノ形式ニ

憲法 統治作用論 法律ノ限界

依ラズシテ親裁ノ命令ヲ以テ行ハセラザル事項ヲ謂フ唯第十條官制其他ハ原則シテ勅令ニ依ルベキモ法律ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得タルニ非ズ故ニ此場合ニ之ヲ前述セル自由事項ノ一種トシテ説明スルヲ可トスヘシ但勅令ノ規定ヲ原則トスルコトニ注意セザルハ勇ラ誤スル事取ラズモ法律ハ法律以上ノ限界ニ關連シテ問題ト爲ルヘキハ例ヘハ法律事項ヲ命令ニ委任シテ規定セシメ又ハ勅令事項ニ委任シテ規定セシムル如キハ理論上許スベキヤ否ヤニ在リ然レトモ此點ハ次章委任命令ノ處ニ於テ論セント欲ス

### 第四節 法律ノ失效

法律ノ失效消滅ハ此中ニ包含スル大體其原因ヲ分チテ他動的原因及ヒ自動的原因ノ二ト爲スコトヲ得ル。此間ニ於テハ消滅ノ原因ニ依リテ消滅ノ法律ニ依リテ廢止及ヒ變更ノ廢止及ヒ變更ノ方法ヲ明示及ヒ默示ノ二アリ明示トハ法律又ハ緊急勅令ヲ以テ明カニ改廢ヲ行フヲ謂ヒ默示トハ此等ヲ以テ前法律

ト抵觸スル規定ヲ設クルノ結果前法ハ改廢セラレルヲ謂フ  
 乙 免除 免除トハ特定ノ場合ニ特定ノ人ニ法律ノ適用ヲ免スルヲ謂フ法律ノ免除ハ同シク法律若クハ緊急勅令ヲ要スルヤ否ヤ之ヲ要セストスル學者ハ或ハ曰ク免除ハ法律自體ヲ動スニ非ス唯法律ノ效力ヲ一部タケ止ムルニ過キナルカ故ニ此等ノ形式ヲ要セスト又曰ク法律ヲ執行ヲ命スルト否トハ天皇ノ隨意ナルカ故ニ免除即チ法律ヲ一部行ハナルモ亦天皇ノ權内ニ在リテ存スト又曰ク執行ヲ命スルハ天皇ノ權利ナル以上ハ權利ノ拋棄モ亦爲シ得タルヘカラス言フ換フレハ免除モ自由ニ行ヒ得タルヘカラスト右三種ヲ消滅說ハ何レモ不適當ナリ兎ニ角免除ハ或場合ニ法律規定ヲ實體ヲ動スモノナルカ故ニ同シク法律若クハ緊急勅令ヲ要スト看ルヘシ但憲法第一章ニ於テ天皇ノ赦免權ヲ認メタル場合ハ格別ナリト知ルヘシ

丙 停止 停止トハ特定ノ區域ニ對シテ特定ノ期間法律ヲ適用ヲ止ムルヲ謂フ停止ニ關シテモ免除ノ場合ト同一ノ問題アルヘシ而シテ之ニ對スル議論ハ前ニ述ヘタル所ヲ參照スレハ明カナリ因テハ其詳自釋スルニ當ラズ

(二) 自動的原因ニ由ル失敗 自動的原因トハ其法律自身カ原因ト爲ル場合ヲ謂フ

甲 法律ニ定メタル失敗條件ノ成就、即チ或條件ニ因リ法律カ失敗スヘキコトヲ法律自ラ定メタル場合ニ其條件成就スレハ當然失敗ス

乙 法律ニ定メタル有効期限ノ到達、是レ亦説明ヲ要セス然レモ天災ノ被害ノ事件若クハ物件ノ滅失ハ單ニ關係のニシテ絕對的ニ非ナルトキハ未ダ直チニ法律ノ失敗ヲ來スヘキ道理ナキニ在リ、以上ノ點際ハ、前章ノ論議ヲ參照スベシ

丙 法律ノ目的タル事件若クハ物件ノ滅失、此場合ニ注意スヘキハ此等ノ事件若クハ物件ノ滅失ハ單ニ關係のニシテ絕對的ニ非ナルトキハ未ダ直チニ法律ノ失敗ヲ來スヘキ道理ナキニ在リ、以上ノ點際ハ、前章ノ論議ヲ參照スベシ

丁 學者ハ尙ホ不適用ニ因リ法律カ消滅スル場合ヲ列舉ス然レトモ是レ亦當然ニ然リト謂フコト能ハス何トナレハ適用スヘキ場合カシトラ法律其レ自身カ直チニ消滅スル道理ナケレハナリ若シ果シテ永久ニ適用ナキコト明白ナランニハ始メテ法律其レ自身ノ意思解釋トシテ失敗ヲ論スヘキナリ

### 第三章 命令

命令ニ大凡二種アリ(一)天皇直接ニ發セラルル命令(二)機關ヲ通シテ發セシムル命令是ナリ憲法ニ於テ主トシテ論スヘキハ前者ニシテ勅令即チ是ナリ後者ハ主トシテ行政法ノ範圍ニ屬スルモノ也

勅令トハ何ソ蓋シ帝國議會ノ協贊ヲ要セサル天皇直接ノ政令ナリ之ニ依レハ制定及ヒ改正ニ於テ更ニ議會ノ協贊ヲ必要トセサルカ故ニ憲法及ヒ法律ト區別シ得ルコト明カナリ

勅令ノ公布及ヒ執行ニ關シテハ大體法律ノ公布及ヒ執行ノ理論ヲ參照スベシ

次ニ勅令規定ノ限界ヲ一言スレハ法律ノ限界ヲ述ベタルト同シテ積極的及ヒ消極的ノ二ニ分ツコトヲ得先ツ積極的限界ヲ甲及ヒ乙ノ二種トス甲ハ勅令事項即チ勅令ノ規定ヲ必要トズル事項ニシテ主トシテ憲法第一章ニ依リ法律ノ干渉ヲ許ササル範圍是ナリ次ニ乙自由事項ニシテ法律ノ先占セサルモノ即チ主トシテ憲法第九條ノ範圍是ナリ第十條モ亦此範圍ニ加ラルコトヲ得ヘシ右ノ積極的限界ニ對スル消極的限界モ甲乙丙ノ三種ニ分ツコトヲ得甲ハ憲法事項ト稱シ憲法カ現ニ規定スル事項ニシテ命令ハ之ニ干渉スルコトヲ得ス乙ハ

法律事項ト稱シ法律ニ非サレハ規定シ能ハサル事項ヲ謂フ次ニ内ハ即チ自由事項ノ中ニ於テ法律カ先占シ隨テ命令ヲ以テ規定シ得サル事項是ナリ蓋シ終ニ勅令ノ失效ニ關シテモ前ニ法律ノ失效ノ節ニ述ヘタル理論ヲ準用シ來ルコトヲ得唯自由事項ニ關シ勅令ハ法律ヨリモ效力弱キノ點ニ注意シテ推論スレハ誤ナシトス

勅令ノ説明ニ於テ最重要ナルハ勅令ノ種類ニ在リ以下之ヲ論セントス命令勅令ノ種類ヲ區別スル標準ハ種種アリ然レトモ多數學者ハ命令ト法律トノ關係ヲ標準トシテ類別ヲ試ムルカ如シ此標準ハ予ノ贊スル所タリト雖モ類別ノ方法ニ至リテ大ニ意見ヲ異ニスルモノアリ先ツ最も普通ナル學說ニ從ヘバ(一)緊急勅令即チ法律ニ代ル命令(二)委任命令即チ法律ノ委任ニ因ル命令(三)獨立命令即チ法律ト關係ナク獨立ニ發セラルル命令四執行命令即チ法律ヲ執行スル命令是ナリ命令此區別ニ依リ節ヲ分チテ説明シ尙ホ學說ノ缺點ヲ指摘セント欲ス

第一節 緊急命令

此命令ハ憲法第八條ニ規定ス此命令ヲ發スルニ左ノ三條件ヲ必要トス

(一) 公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メナルコト

(二) 緊急ノ必要アルコト

(三) 議會閉會中ナルコト

是ナリ此等ノ條件ハ詳細ノ説明ヲ待タズシテ明カナリ唯其大略ヲ述フニハ(一)ハ公共ノ安全ヲ保チ災厄ヲ避クル爲メナルカ故ニ其目的ハ寧ろ消極的ニシテ單ニ一般ノ幸福ヲ増進スル如キ積極的ノ場合ニ非ス尙ホ或學者ハ公共ノ文字ヲ以テ國家ト區別シ國家ノ安寧ノ爲メニスルハ此中ニ含まスト論スレトモ國家ノ安寧ト公共ノ安寧トハ此ノ如ク明白ニ區別シ得ヘキモノニ非サルナリ次ニ(二)ハ緊急ノ必要カカルヘカラス尙ホ次ニ(三)議會閉會中ナルコトヲ要ス之ニ關シテ一疑問アリ即チ議會閉會中ナリハ縱令臨時議會召集ノ暇アル場合ト雖モ召集ヲ行ハスシテ緊急勅令ヲ發シ得ルヤ或ハ又議會閉會中ニシテ而モ臨時

議會召集ヲ待ツコト能ハサルトキニ限リテ此勅令ヲ發シ得ルヤノ點ナリ多クノ學者ハ憲法第七十條財政上ノ緊急處分ノ場合ニ議會ヲ召集スルコト能ハサルトキ下アルニ比較シ第八條ニハ此文ナキカ故ニ閉會中ナレハ臨時議會ヲ召集シ得ルト否トニ拘ハラズ緊急勅令ヲ發シ得ト論ス此論一理アルニ似タリ然レトモ更ニ仔細ニ觀察スレバ憲法第四十三條ニ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ臨時會ヲ召集スルニシテ規定ス即チ緊急ノ場合ニハ是非トモ臨時會ヲ召集セラルベカラサルコトト爲レリ此點ヨリシテ間接ニ論シ臨時會ノ召集ヲ待ツス暇アレバ漫ニ緊急勅令ヲ發スベカラサルノ論結ト爲ルベキナリ畢竟此勅令ニ萬已ムヲ得サル緊急ノ場合ニシテ臨時議會ノ召集ヲモ待ツコト能ハサルトキニ發スルモノト解スルヲ以テ前後ノ趣意一貫スルニ似タリ

緊急勅令ハ以上ノ條件ヲ以テ發セラル而シテ其規定ノ實質タルヤ法律ニ代ルモノナルカ故ニ(一)法律ノ規定ヲ必要トスル事項(二)現ニ法律カ規定スル事項ニ限ルコト明カナリトス

緊急命令

此勅令ハ次ノ議會ニ提出シテ承諾ヲ求ムルヲ要ス蓋シ承諾トハ異議ナシト云

フニ止マリ固ヨリ事後ニ起ルモノヲナルカ故ニ議會ニ修正等ノ職權ヲキヤ論ナシ而シテ承諾ノ效果ヲ論スレハ(一)ノ場合ニ分ツコトヲ得甲)此命令カ現ニ存スル場合ニハ承諾ノ效果トシテ命令ハ有效ニ繼續ス(乙)若シ此命令カ既ニ廢セラレタル後ナレバ唯其適當ナリシコトヲ承認スルニ止マルノミ且其效力ハ(一)右ハ承諾ノ場合ナリ若シ承諾ナレハ其命令ニシテ尙ホ廢セラレザリシ場合ハ政府ハ將來ニ向ヒテ效力ヲ失フコトヲ公布セサルベカラズ(二)議會ニ緊急勅令ニ關シ數種ノ問題アリ得ヘシ終ニ臨ミテ(一)之ヲ説明セントス蓋シ(二)一ニ緊急勅令ハ普通ノ勅令ヲ以テ改廢シ得ヘキヤ否ヤ

或學者ハ曰ク緊急勅令モ一種ノ勅令ナリ故ニ一般勅令ヲ以テ改廢スルヲ得タルベカラズト又或學者ハ曰ク緊急勅令ハ多クノ場合ニ普通ノ勅令ヲ以テ廢止變更ヲ行ヒ得ヘシト雖モ總テ然リト謂フコト能ハス即チ憲法第二章ニ定メタル法律事項ニ關シテハ之ヲ廢スルコトハ爲シ得ヘキモ之ヲ變更スルコト能ハス其理由ハ緊急勅令ハ憲法第二章ノ範圍ニ於テ法律ニ代リテ臣民ノ權利ヲ制限シ義務ヲ規定ス此ノ如キ勅令ヲ廢スルハ臣民ニ對スル拘束ヲ解放スルモノ

ニシテ普通ノ勅令ヲ以テスルモ憲法ニ抵觸セズ何レノ憲法ノ權利ノ制限ノ義務ノ設置ハ法律ニ依ルベシト規定スルモ此等ノ拘束ヲ解放スルハ必ス法律ヲ要スル規定セザルカ故ニ普通ノ勅令ヲ以テシテモ爲シ得ヘケレハナリ然ルニ變更ノ場合ハ廢止ト異ナリ恰モ新ニ權利ノ制限ヲ設ケ義務ヲ設置スルト同一ナルカ故ニ普通ノ勅令ヲ以テ行ヒ得ザルナリ畢竟廢止ト變更トニ依リ議論ヲ別タザルヘカラストハ、議會ハ、勅令トモ、法律トモ、一ニ稱シテ以テ之ヲ區別スルベシト云フ也

(一) 第一說ハ總テノ場合ニ於テ、第二說ハ多クノ場合ニ於テ緊急勅令ハ普通ノ勅令ヲ以テ改廢スルヲ得ルモノト爲ス而シテ其理由ノ要點ハ同シク勅令ニ外ナラザレハナリト云フニ在リ然レトモ緊急勅令ハ法律ニ代ルモノニシテ法律ニ非ザレハ規定シ得ザルコトヲ規定ス故ニ其本質ハ法律ナリ且其效力ヨリ論スルモ一般法律ト同シク他ノ法律ヲ改廢シ得ヘシ要スルニ其本質ヨリ論スルモ其形式的效力ヨリ論スルモ其ニ法律ト異ナル所ナシ故ニ之ヲ普通ノ勅令ト對等視スルハ根本ヨリ誤謬ナリ是ヲ以テ予ハ曰ク普通ノ勅令ヲ以テ改廢ス

ルコトヲ得スト

(二) 第二說ハ尙ホ憲法第二章ノ範圍ニ關スル緊急勅令ハ普通ノ勅令ヲ以テ改廢スルコトハ爲シ得ルモ變更スルコトハ爲シ得ズト論ス其理由ハ臣民ニ對スル拘束ハ法律若クハ緊急勅令ヲ要スレトモ拘束ヲ解クハ普通ノ勅令ニテ可ナリト云フニ在リ

之ニ反對スル論旨ノ要點ハ先ツ大體ニ於テ緊急勅令又普通勅令ニテ改廢變更廢止スルノ不可ハ前述ノ如シ此點ハ姑ク措クモ第二說論者ノ論法甚ク不完全ナリ何トナレハ此論法ヲ用フレハ憲法第二章ニ關シ單ニ緊急勅令ノ廢止ノミナラス或場合ニハ其變更モ亦普通勅令ニテ爲シ得ルコトト爲ルヘケレハナリ例ヘハ從來ノ拘束ヲ一層輕キモノニ變更シタルトキハ同シク變更ナレトモ拘束ノ解放ニハ相違ナシ左レハ普通ノ勅令ヲ以テモ爲シ得ルト謂ハザルヘカラス論者ノ說ハ此點ニ於テ矛盾セリ若シ論者ノ趣意ヲ貫カントセハ變更トハ唯拘束ヲ一層重クシタルトキノミヲ云フト爲サザルヘカラス然レトモ拘束ヲ重クスルト輕クスルトヲ間ハス從來ノ拘束ヲ改ムルハ皆變更ナリ故ニ曰ク此論



法ハ不完全ナリト且此等ノ理論ハ姑ク措キ議法人大體ヨリ觀察スルトキ以憲法カ臣民ノ權利義務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スド爲シタルニ此種臣民ノ權利義務ニ關係シテハ總テ其取扱ヲ鄭重ニスルノ趣意ニ外ナラス然ルニ之ニ關スル規定ノ廢止ト變更トノ間ニ差別ヲ立テ其取扱ヲ異ニスルカ如キ小刀細工ノ人論法ヲ用フルハ甚タ不可ナリトス

二 緊急命令カ次ノ議會開會前ニ廢セラレタルトキニ於テモ仍ホ之ヲ提出シテ議會ノ承諾ヲ求メタルヘカラサルヤ否ヤ

或學者ハ曰ク議會ノ承諾ハ勅令將來ノ效力ヲ承認スルニ在ルカ故ニ既ニ廢セラレタルモノハ提出ノ必要ナシト然レトモ緊急勅令ハ本來法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ定ムルカ故ニ其本質ハ議會ノ協贊ヲ經ヘキモノナリシナリ唯已ムヲ得サル事情ニ因リ事前ノ決議ヲ爲スコト能ハスシテ事後ノ決議ヲ爲スニ外ナラス果シテ然ラハ議會ノ議決ハ單ニ將來ノ效力如何ニ關スルモノニ非スシテ主トシテ其勅令實體カ其當時ニ於テ適當ナリシヤ否ヤヲモ審議セザルヘカラス此點ヨリ推ストキハ縱令廢止セラレタリトモ一應ハ議會ニ提出シ其承諾

ヲ求ムルヲ至當トスヘシ且實際上ノ利益トシテモ(一)應議會ノ意向如何ヲ確ムルハ將來ノ政策上必要ナリ(二)兎ニ角議會ノ議ヲ經サルヘカラストスルトキハ勅令發布ノ場合ニ於テ自ラ輕卒ニ流レタルノ利益アリトス

此問題ニ關連シテ尙ホ議會カ審查ヲ行フ範圍ノ問題アリ即チ議會ハ勅令實體ノ適否ヲ審查スル外臨時議會ヲモ待ツコト能ハサル緊急ノ事情アリシヤ否ヤヲ審查シ得ヘキヤノ問題ナリ予ハ既ニ述ヘタル如ク議會ノ議決ハ實體ノ適否ニ止マリ緊急ノ事情ノ認定ハ一ニ天皇ノ大權ニ存ストスルヲ穩當ナリト考フ

三 議會ノ不承諾ヲ爲メニ緊急勅令カ廢セラレタル場合ニハ其勅令ノ爲メニ改廢セラレタル法律ハ當然復活スヘキヤ否ヤ

或學者ハ曰ク緊急勅令ハ唯法律ヲ條件ニ繫ラシメタルニ止マル即チ後日議會カ承諾スレハ法律ハ消滅ス若シ不承諾ナレハ法律ハ回復ス其時マテハ條件附法律カ存在スルナリト然レトモ先ツ憲法ハ果シテ條件附法律ナルモノヲ認ムルヤ否ヤ第八條ノ規定ニ依レハ緊急勅令ハ完全ニ法律ニ代ル力ヲ有ス故ニ此勅令カ法律ヲ改廢スルハ單ニ法律ニ條件ヲ附スルニ非ス完全ニ有效ニ之ヲ改

廢シアルナリ果シテ然ラハ後ニ至リ其勅令カ效ヲ失ヒタリトモ前ノ法律カ同  
 復スヘキ道理ナキナリ極メテ簡易ニ色ヲ以テ譬ヘシニ白ヲ捨テテ黒ヲ取リ次  
 ニ黒ヲ捨テテ白ヲ取レハ必ス白ニ非ス青黃赤種種ノ色アリテ存ス  
 然ルニ論者ハ黒ヲ捨ツレハ必ス白ニ復スヘシト考フルニ相似タリ勅令ノ場合  
 モ此ノ如ク時ノ必要ニ依リ更ニ前ノ法律トモ亦緊急勅令トモ異ナル一種ノ規  
 定ヲ要スルヤモ測ラレス然ルニ強ヒテ前ノ法律ヲ復活セシメントスルハ甚タ  
 不可ナリ且又議會ノ職權ヨリ論スルモ此場合ハ唯異議ノ有無ヲ定ムルノミニ  
 シテ法律ヲ復活セシムルマテノ權限ナキヤ明カナリトスルニ當テモイザ  
 以上ヲ以テ緊急勅令ヲ了リ次ニ委任勅令ニ移ラントス

### 第二節 委任命令

委任命令トハ法律ノ委任ニ因ル命令ナリ之ニ關シテハ根本的ノ議論アリ即チ  
 委任命令ナルモノハ果シテ認メ得ヘキヤ否ヤ是ナリ今便宜ヲ爲テ問題ヲ分チ  
 テ論スヘシ即チ(一)憲法上法律ノ規定ヲ要スル事項ヲ命令ニ委任スルヲ得ルヤ

否ヤ(二)其他ノ事項ニ關シテ廣ク命令ニ委任シ得ルヤ否ヤ是ナリ  
 (一) 憲法上法律ノ規定ヲ要スル事項ヲ命令ニ委任シ得ルヤ否ヤ  
 此點ニ關シテ予ハ消極說即チ委任ヲ爲シ得ストノ論ヲ執ラント欲ス其理由ハ  
 而ニ簡明ナリ蓋シ憲法ニ於テ明カニ法律ヲ要スト定ムルハ其事務カ議會ノ協  
 贊ヲ經ヘキ必要アレハナリ然ルニ之ヲ命令ニ一任シテ規定セシムルハ全ク憲  
 法ノ趣意ニ反スト云フニ在リ此點ニ付キ獨逸ノヘレンキ氏ノ如キハ極論シテ曰  
 ク若シ法律カ其規定ヲ命令ニ讓ルヲ得トノ論法ヲ用ヒンカ立法機關ハ總テ其  
 權限ヲ他ノ機關ニ委任シ得ト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ國法上特ニ立法  
 機關ヲ設備スル必要ナキニ至ルヘシ是レ國法ヲ無視スルノ論ナリト此論甚タ  
 道理アリ然ルニ反對論者ハ更ニ論シテ曰ク憲法ハ一定ノ事項ハ法律ノ規定ヲ  
 要スト定ムト雖モ其法律カ如何ナル方法ヲ以テ規定スヘキカノ點マテヲ定メ  
 タルニ非ス故ニ法律カ總テ自ラ規定スルモ可ナリ或ハ規定ヲ命令ニ讓ルモ可  
 ナリ何トナレハ兩者共ニ法律規定ノ方法ニ外ナラザレハナリト此論巧ナルカ  
 如シト雖モ甚タ不可ナリ何トナレハ憲法ニ於テ法律ヲ以テ規定スヘシトスル

ハ即チ規定ノ方法ヲ定メタルモノニシテ論者ノ如ク他ニ如何ナル方法ヲ取ルモ差支ナシトノ意ニ非ス言ヲ換フレハ命令ニ委任スルモ差支ナシト解スヘキニ非ナルナリ故ニ曰ク委任命令ハ認ムヘカラスト重ハ委任命令ニ屬ス以上ハ第一ノ問題即チ法律事項ヲ命令ニ委任シ得ルヤ否ヤノ説明ナリ

二 法律事項以外ノ事項ハ法律ヲ以テ命令ニ委任シ得ヘキヤ否ヤ有ク然レトモ此場合ハ委任ヲ認ムルモ差支ナキカ如シ故ニ學者ハ普通ニ之ヲ認ム然レトモ予ハ左ノ三點ヨリ疑義ヲ起サントス

一 憲法上委任ノ命令ヲ認メタル證據ナシ蓋シ緊急命令執行命令若クハ獨立命令ノ如キハ憲法第一章ニ於テ明カニ之ヲ規定スレトモ法律委任ノ命令ニ至リテハ何レノ處ニモ之ヲ載セス

二 委任命令ト稱スルハ法律ノ委任ニ因リ之ニ代ルモノナルカ故ニ其形ハ命令ナリト雖モ其力ハ法律ト同シク他ノ法律又ハ緊急勅令ヲモ改廢シ得ルモノナリ予ハ我國法ニ於テ廣ク此ノ如キ強力ナル命令ヲ認ムルキ否ヤヲ疑フ蓋シ憲法上法律ニ代ル命令トシテハ唯一ノ緊急勅令ヲ認ムルノミ其他普通ノ場

合ニハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ許サザルナリ然ルニ一般學者カ隨意ニ委任ノ理論ヲ援用シ別ニ法律ニ代ル命令ヲ認ムルハ憲法ノ趣意ニ適合セザルニ非シヤト疑フナリ

三 予ハ又我國法上委任命令ヲ認メサルヘカラサル必要ナシト考フ蓋シ委任命令ヲ必要ナリトスル重ナル論據ハ法律ヲ以テシテハ萬般ノ事項ヲ網羅シ盡スコト能ハサルカ故ニ命令ニ委任スル必要アリト云フニ在リ然レトモ我國法ニ於テハ法律ノ委任ニ因リタルモ命令ヲ以テ獨立ニ各種ノ規定ヲ爲シ得ルノミナラス憲法ニ於テ更ニ法律執行ノ命令ヲ認メ法律ニ基キテ適宜ノ規定ヲ爲スヲ得セシム故ニ強ヒテ委任命令ヲ認メサルヘカラサル必要ナシトス

以上述ヘ來リタル所ニ據リ予ハ法律委任ヲ排セント欲ス

第三節 獨立命令

獨立命令トハ憲法第九條ニ依ル命令ヲ稱ス或學者ハ此命令ノ範圍ヲ論ジテ曰ク獨立命令ニ消極的及ヒ積極的ノ二限界アリ先ツ消極的限界トハ此命令ノ規

定シ得サル範圍ニシテ法律ヲ規定スル事項ニ法律ヲ現ニ規定スル事項  
 是ナリ次ニ積極的の限界トハ第九條ニ所謂公共ノ安寧ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ增  
 進スルノ目的カ此限界ヲ爲スナリ其理由ハ元來國家ノ政務ハ大別シテ二ト爲  
 リ(一)國家自身ノ利益ヲ目的トスル政務例ヘハ外務軍務及ヒ財務ノ行政ト(二)公  
 共ノ利益ヲ目的トスル政務例ヘハ内務行政トニ區別セラル而シテ憲法第九條  
 此第二ノ公共ノ利益ヲ目的トスル政務ノミヲ指稱スルモノナルハ條文ニ據  
 リテ明カナリ若シ此ヲ如ク解モ廣ク一般ニ亘リ(一)(二)共ニ包含ストモ本  
 條ノ規定ハ其趣意ヲ解スヘカラサルニ至ラン何トナレバ一般ニ亘リテ命令ヲ  
 發スルハ國權當然ノ作用ニシテ特ニ之ヲ規定スル必要ナクテハナリト  
 右論者ノ説ヲ吟味スルニ先ツ消極的の限界ニ關シテハ甚ク批難スヘキ所ナリト  
 雖モ積極的の限界ト稱スルモノニ關シテハ大ニ不可ヲ唱ヘサルヲ得ス  
 (甲)論者ハ國家ノ政務ヲ二種ニ區別スト雖モ國家ノ利益ト公共ノ利益トハ  
 理論上一致シテ分ツヘカラサルモノナリ先ツ歐洲諸國ノ如ク民主國ニ在リテ  
 小國民ハ主權者ニシテ即チ國家ナリ故ニ國家ト公共トハ全く同一ニテ元來

二者ノ利益ヲ別別ニ論スルコト能ハス次ニ我國ニ於テハ天皇即チ國家ナルカ  
 故ニ國家ノ利益ト公共ノ利益トハ區別シテ論シ得ヘキニ似タレトモ仔細ニ觀  
 察スレハ決シテ然ラス統治ノ主體タル天皇ノ利益ト公共ノ利益トハ理論上常  
 ニ一致シテ離ルヘカラサルモノナリ故ニ論者ノ如ク國家ノ政務ヲ二分スルコ  
 トハ固ヨリ能ハス且憲法制定者カ國家若クハ公共ノ文字ヲ此カ如ク使ヒ分ケ  
 タルニ非サルコトハ伊藤氏憲法義解本條ノ註釋ヲ見ルモ亦明カナリ然ルニ強  
 ヒテ文字ニ拘泥シテ右ノ區別論ヲ爲スハ甚ク不可ナリトス  
 (乙)次ニ論者ハ一般ニ亘リテ命令ヲ發スルハ國家當然ノ作用ナルカ故ニ憲  
 法ニ規定スヘキ道理ナシト論ス然レトモ今日立憲國ノ原則トシテ國權ノ作用  
 ハ總テ法ヲ以テ規定スヘク總令一般ニ亘ル當然ノ作用ナリトモ法カ其規定ヲ  
 設クルハ毫モ怪シムニ足ラサルニミテ立憲ノ原則ニ照シテ必要ニシテ力  
 ラトス而シテ憲法ハ既ニ述ベタル如ク國權體用ノ大綱ヲ定ムルモノナリ故  
 ニ其内ニ於テ廣ク命令權ノ規定ヲ爲スハ性質上及ヒ體裁上固ヨリ然ルヘキ道  
 理ナリトス加之特ニ公共ノ安寧秩序臣民ノ幸福ト云ヌ大目的ヲ掲ケ廣ク命令

ヲシテ此目的ニ依ラシムルハ亦極テ必要ノコトナリ且一方ヨリ言ハハ外國ノ主義即チ人民ノ權利義務ノ規定ハ法律ニ依ラサルヘカラストノ觀念モ此規定ニ依リ明カニ排斥スルヲ得ヘク立法者ノ注意見ルヘキナリ兎ニ角論者カ一般命令權ヲ規定スルハ不必要ナリトノ論ハ探ルニ足ラス尙ホ論者ノ如キ論法ヲ用アルトキハ憲法第九條ノミナラス第一條及ヒ第三條ノ如キ重要ナル規定ヲ我國法上當然ノ事ニ屬スルカ故ニ規定ノ要ナシト謂ハサルヘカラストルニ至ルヘシ豈ニ此ノ如キ理アラシヤ

右ハ獨立命令ニ關スル積極的及ヒ消極的限界ト稱スルモノヲ批評セリ尙ホ大體ヨリ論シテ獨立命令ノ名稱ハ甚タ曖昧ナリ獨立トハ法律ヨリ獨立スルヲ謂フ果シテ然ラハ單ニ第九條ノ命令ニ止マラス其他勅令事項ヲ規定スル命令ハ法律ノ干渉ヲ容テサルカ故ニ明カニ獨立命令ト謂ハサルヘカラスト然ルニ普通學者ハ獨立命令ト云ヘハ憲法第九條ノ命令ニ限ルカ如ク考ヘ其他勅令事項命令ハ命令ノ種別ノ中ニ加ヘサルハ甚シキ缺點ナリト云ヒ得ヘシ一歩ヲ進メテ言ヘハ真正ニ獨立命令ト謂フヘキハ却テ勅令事項命令ノミニシテ憲法第九條

ノ命令ハ真正ノ獨立ニ非ス何トナレバ法律ノ爲メニ改廢サレル命令ナレバチテ是ニ於テカ普通論者ノ命名ハ益々其不適當ナル所ヲ見ルヘシ

#### 第四節 執行命令

執行命令トハ法律ヲ實行スル爲メニ發スルモノニシテ憲法第九條ニ規定ス此命令ノ範圍ニ關シテモ議論數種ニ歧ル

甲說ハ曰ク執行命令ハ法律ヲ其儘施行スルカ爲メニ發スルモノナルカ故ニ便宜規定ヲ設タルノ餘地アルヘカラスト予ハ此觀念ノ狹隘ニ失セズヤヲ疑フ蓋シ法律ハ一一詳細ノ規定ヲ爲サズ屢大體ノ規定ノミヲ設タルニ止マルコトアリ此ノ如キ法律ヲ實施セシムルハ執行命令ノ本分ニシテ之カ爲メニハ法ノ範圍内ニ於テ便宜ノ規定ヲ設タルヲ得サルヘカラスト

乙說ハ甲說ト正反對ニ走リ執行命令ハ法律ヲ完全ニ行ハシムルヲ目的トスルカ故ニ必要ノ場合ニハ其不備缺點ヲ補充スルコトヲ爲シ得サルヘカラスト論ス予ハ此說モ亦餘リニ極端ニ走リ廣キニ失ズル嫌アルニ非スヤヲ疑フ何

トナレハ執行命令ハ何處マテモ法律施行ノ範圍ヲ出スルコト能ハス故ニ縱令法律ニ不備缺點アリトモ之ヲ補充スルマテノ力ヲ有スヘカヲサレハナリ又右二説ノ相岐ルル重ナル理由ハ一方ニ於テ委任命令ヲ認ムルト否トモ在リ蓋シ委任命令ヲ認ムル者ハ執行命令ヲ狭ク解スルモ不都合ナシ何トナレハ法律委任ノ理論ヲ以テ各種ノ命令ヲ發スルヲ得レハ未ダ之ニ反シテ委任命令ヲ認メタル者ハ執行命令ヲ廣ク解セザレハ不便ナリトスルヨリ此正反對ノ議論ヲ生シ來リシナリ予ハ既ニ述ヘタル如ク委任命令ヲ認メスト雖モ執行命令ニ關シ前兩説ノ如ク極端ニ走ルヲ欲セズ畢竟此命令ハ法律執行ノ目的ノ範圍内ニ於テハ便宜各種ノ規定ヲ爲シ得ヘシト雖モ更ニ進ミテ法律ヲ補足スルマテノ力ナキモノナリトス

或ハ曰ハシ此ノ如クシテ執行命令ト委任命令トハ實ヲ同クシテ唯名ヲ異ニスルニ過キタルモノト爲ルヘシ是ニ於テ二者ノ區別甚ク曖昧ナリト然レトモ前ニ述ヘタル如ク委任命令ハ法律ニ代ルル命令ニシテ法律ト同一ノ力ヲ以テ他ノ法律又ハ緊急勅令ヲ改廢スルヲ得ルモノナリ然レトモ執行命令ニ至リテ

ハ法律ニ代ルルニ非ス法律ヲ施行スルニ止マルカ故ニ直接ニ他ノ法律又ハ緊急勅令ヲ改廢スル如キ力ナキヤ明カナリ憲法第九條ノ末文ニモ此規定アリ果シテ然ラハ委任命令ト執行命令トハ單ニ名稱ヲ異ニスルニ止マラス其實質ニ於テ差異アリト知ルヘシ

### 第五節 結論

第一節ヨリ第四節ニ至ルマテハ普通通行ハルル命令ノ種類ニ依リ順ヲ逐ヒテ其缺點ヲ批難シ併セテ予ノ意見ヲモ述ヘ來レリ要スルニ此種ノ類別ハ適當ナリト稱フヘカラシ

予モ亦標準ヲ法律ト命令トノ關係ヲ取リ一種ノ區別ヲ試ミントス

(一) 法律ノ干渉ヲ許ス勅令ニ即チ法律ニ依リ改廢セララルル勅令ニシテ更ニ三分ス

- 甲 法律ニ代ル勅令 緊急勅令即チ是ナリ
- 乙 法律ヲ執行スル勅令

丙 法律ニ關係ナクシテ發セララルル勅令 主トシテ學者ノ所謂獨立命令

甲 是ナリヲ別ニ檢令 緊急檢令則チ強クモ

(二) 法律ノ干涉ヲ許サタル勅令 此種ノ勅令ニ關シテハ前ニ親裁ノ政務ヲ説

明シタル際既ニ之ヲ述ヘタリヤ茲ニ尙モ尙モ其ハ檢令ニ關シテハ其ニ三

此説明ハ大概前ニ述ヘタル所ニテ明カナルカ故ニ之ヲ略ス

本年ノ終了ト同時ニ茲ニ此講筵ヲ閉ツ

編纂ニ對シテ尙モ若干ノ意見ヲ呈スルニ及ビテハ其ノ趣旨ハ編纂ニ對シテ

第一番目トシテ第四番目ニ至ルマデハ皆編纂ニ對シテ勅令ノ範圍ニ對シテ其

第五節 附錄

ニ對シテモイハレハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

ニ對シテハ...

法學士 竹井耕一 郎 講述

憲 法

和佛法律學校

憲法

**憲法** 第一節 國與國ノ關係 ..... 一五八

**緒言** 第一節 國ノ定義 ..... 一五九

**第二章 總論** 第一節 憲法ノ概念 ..... 一六〇

**第三章 法ノ分類** 第一節 法律ノ種類 ..... 一六一

**第四章 憲法** 第一節 憲法ノ概念 ..... 一六二

**第五章 憲法ノ制定** 第一節 憲法ノ制定 ..... 一六三

**第六章 憲法ノ效力** 第一節 憲法ノ效力 ..... 一六四

**第七章 憲法ノ變更** 第一節 憲法ノ變更 ..... 一六五

**第八章 憲法ノ法界** 第一節 憲法ノ法界 ..... 一六六

**第九章 國家及國體** 第一節 國家及國體 ..... 一六七



第五章 統治權

第六節 領土ノ領有.....七〇

第七節 領土ノ放棄.....七〇

第八節 領土ノ變更.....七〇

第二章 天皇ノ地位.....八六

第三章 天皇ノ國法上ノ性質.....八六

第四章 皇位繼承.....九四

第五編 臣民論.....一〇四

第三章 臣民ノ本質.....一〇五

第四章 臣民ノ義務.....一〇九

第五章 臣民ノ權利.....一一五

第六章 臣民籍ノ得喪.....一五五

第七節 臣民籍ノ取得.....一五四

第八節 臣民籍ノ喪失.....一五八

憲法

第四編 機關論.....二五九

第一章 機關ノ意義.....二五九

第二章 機關ノ種類.....二六三

第三章 攝政.....二六七

第一節 攝政ノ地位.....二七三

第二節 攝政ノ終了.....二七三

第三節 攝政ノ性質.....二七五

第四章 樞密顧問.....二八四

第五章 帝國議會.....二八七

第一節 帝國議會ノ性質.....二八七

第二節 帝國議會ノ組織.....二九四

第三節 帝國議會ノ種類.....二九七

第四節 帝國議會ノ開始停止及終了.....三〇四

第一款 帝國議會ノ開始.....三〇四

第二章 帝國議會ノ停止……………二〇七

第三章 帝國議會ノ組織……………二〇七

第五節 帝國議會ノ職權……………二〇七

第六節 貴族院……………二〇七

第七節 衆議院……………二〇七

第一節 貴族院ノ組織……………二〇七

第二節 貴族院ノ成立及ヒ停會……………二〇七

第三節 貴族院ノ職權……………二〇七

第四節 衆議院……………二〇七

第五節 衆議院ノ組織……………二〇七

第六節 衆議院ノ成立及ヒ其終了……………二〇七

第七節 衆議院ノ職權……………二〇七

第八節 兩院協議……………二〇七

第九節 議員ノ職權……………二〇七

第十節 議員ノ召集及ヒ解職……………二〇七

第十一節 議員ノ職務執行ノ形式……………二〇七

第三項

第三項 議員ノ權利……………二二三

第六章 國務大臣……………二二七

第七章 政府……………二四九

第八章 司法裁判所……………二五〇

第九章 會計検査院……………二六四

第五編 統治作用論……………二六六

第一章 總論……………二六六

第一節 親裁ノ政務……………二六八

第二節 非親裁ノ事務……………二八〇

第三節 附說……………二八三

第二章 法律……………二八五

第一節 法律ノ意義……………二八五

第二節 法律ノ制定公布及ヒ執行……………二九一

第三節 法律ノ限界……………三〇〇

第四節 法律ノ失効……………三〇二

第三章 命令……………三〇四

  第一節 緊急命令……………三〇七

  第二節 委任命令……………三六四

  第三節 獨立命令……………三六七

  第四節 執行命令……………三二七

  第五節 結論……………三二五

第一章 總論……………二六六

  第五節 憲法中軍論……………二六六

  第六節 會精査査論……………二六四

  第七節 偵察禁限……………二五〇

  第八章 雜則……………二四〇

第六章 附則……………二三三

憲法目次終 議員ノ選任……………二二三

及ホサストスル説モ亦非ナリ宜シク之ヲ適度ニ行爲者又ハ爾餘ノ共犯ニ及  
 ホスヘシ例ヘハ公務員ニ非サル者カ公務上ノ罪ヲ共犯シタル場合共同正犯  
 此限ニ在ラス又軍人ニ非サル者カ軍事上ノ罪ヲ共犯シタル場合ハ宜シク  
 之ヲ無罪トスヘク公務員カラサル者カ公務上ノ罪ニシテ同時ニ又通常罪ト  
 ル罪ヲ共犯シタル場合即チ監守盜ヲ共犯シタル場合ノ如キハ宜シク其刑ノ  
 範圍内ニ於テ通常ノ受寄物費消罪ノ共犯ニ比較シ更ニ重キ刑ヲ科スヘシト  
 云フニ在リ

(ロ) 行爲者ノ身分ニ因ル責任ハ之ヲ總テ共犯ニ及ホシ共犯人身分ニ因ル  
 責任ハ總テ之ヲ行爲者又ハ爾餘ノ共犯ニ及ホサスト爲ス説 此説ハ「スト」  
 ノ唱道スルモノニシテ畢竟共犯ノ附屬的性質ヨリ打算シタルモノナルニ過  
 キスヘシ

(ハ) 行爲者ノ身分ニ因ル責任ハ之ヲ救唆犯及ヒ補助犯ニ及ホスヘシト雖モ  
 共同實行犯ニ付テハ其身分カ自然的ナル場合ニ於テハ之ヲ他ノ共同實行者  
 ニ及ホスヘク法律的ナル場合ニ於テハ之ヲ及ホサスト爲ス説「ワラシク」之

ヲ唱フ然レトモ氏ハ行為者又ハ共犯ノ身分カ刑ノ免除事由ナル場合ニ於テ其事由カ客觀的ナル場合ヲ認メ例ヘハ親子ヲ懲戒スル場合ノ如ク曰ヒ此場合ニ於テハ他ノ行為者及ヒ共犯ニモ其效力ヲ及ビスヘシト曰フ予ハ此場合ハ之ヲ身分ヲ刑ノ免除事由ト爲スモノト信セス

(二) 行為者又ハ共犯人身分ニ因リテ構成スヘキ罪ニ付テハ之ヲ行為者又ハ爾餘ノ共犯ニ及ホシ身分ニ因リテ加重減輕又ハ免除スヘキ罪ニ付テハ之ヲ行為者又ハ爾餘ノ共犯ニ及ホサスト爲ス法制例ヘハ公務上ノ罪ニ付テハ公務員タラサル共犯ハ之ヲ公務上ノ罪ノ犯行者ト爲シ尊屬親殺害罪ニ付テハ卑屬親タル身分ヲ有セザル共犯ハ唯通常ノ殺人罪ノ共犯ト爲スナリ

上述セシ數多ノ方法中折衷說ノ(一)ハ獨逸刑法ノ採用スル所ニシテ又實ニ我刑法改正案ノ採用シタルモノナリ同案第七十七條ニ曰ク犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科スト面シテ刑法改正

案參考書ニ曰ク本條第一項ハ新ニ設ケタル規定ナリ現行法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキ爲メニ學說ニ分レハ之ヲ以テ共犯ニアラスト爲セドモ改正案ハ第二ノ主義ヲ採リ身分ナキ者カ身分アル者ト共ニ身分ニ因リテ構成スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ共犯ト爲スコトトセリ第二項ハ現行刑法第百六條及ヒ第百十一條ト同一ノ規定ニシテ現行法ニハ減輕ノ場合ニ關スル規定不備ナルヲ以テ之ヲ補充シタルノミナリト予モ亦此說ヲ便宜且妥當ナルモノト信スト雖モ而モ何故ニ身分ニ因リテ構成スヘキ罪ニ付テハ其身分ナキ者ヲ以テ共犯ト爲ササルヘカラサルヤ又何故ニ身分ニ因リテ刑ヲ輕重スヘキ罪ニ付テハ其身分ナキ者ニ對シ通常ノ刑ヲ科セサルヘカラサルヤヲ知ルコトヲ得ス要スルニ此種ノ規定ハ寧ロ實際上ノ必要又ハ便宜ニ根據スルモノニシテ純理ヲ以テ之ヲ說明シ得ヘキモノニ非スト信ス

現行刑法第百六條及ヒ第百十條ニ於テハ左ノ三事項ヲ規定セリ

一〇 正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキトキハ他ノ正犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス第一〇六條

二 正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減輕スヘキトキハ從犯ニ及ホスコトヲ得(第一一〇條第二項)

三 從犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキトキハ從犯ノ刑ヲ加重ス(第一一〇條第一項)

規定ノ不備此ノ如ク甚シキヲ以テ現行法上左ノ疑問ヲ生スヘシ

(1) 正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減輕又ハ免除スヘキトキハ他ノ正犯及ヒ教唆犯ニ及ホスコトヲ得ルヤ 現行法ハ正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減輕スヘキトキハ唯從犯ニ之ヲ及ホスコトヲ得スト云フノミニシテ第一一〇條第二項果シテ他ノ正犯及ヒ教唆犯ニ及ホスヘキヤ否ヤヲ明定セス論者或ハ曰ク第六條ニ所謂刑ヲ加重ス可キ時ナル語中ニハ共ニ刑ノ減輕又ハ免除ヲモ包含スト然リ立法論トシテハ刑ヲ加重減輕又ハ免除スル場合ハ共ニ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホササルヲ可トスルモ刑ノ加重ナル語中ニ刑ノ加重減輕又ハ免除ヲ包含ストノ解釋ハ甚タ專横ナリト謂ハサルヘカラス予ハ事口之ヲ現行法ノ缺點トシテ指摘スルヲ可ナリト信ス

- (2) 從犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重減輕又ハ免除スヘキトキハ他ノ正犯從犯又ハ教唆犯ニ及ホササルヤ 刑法第一百條第一項ニハ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減スト規定スト雖モ是レ從犯ニハ其刑ヲ加重スヘキコトヲ示シタルニ止マリ他ノ正犯從犯又ハ教唆犯ニ之ヲ及ホスヤ否ヤヲ定メタルモノニ非ス況ヤ從犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減輕又ハ免除スヘキ場合ニ付テハ何等ノ規定ヲモ設ケサルニ於テヤ
- (3) 教唆者ノ身分ニ因リ刑ヲ加重減輕又ハ免除スヘキトキハ他ノ正犯從犯又ハ教唆犯ニ及ホササルヤ 此疑問モ亦何等ノ明文ナキニ由リ之ヲ釋義スルコトヲ得ス刑法ノ立法者ハ教唆犯ヲ一ノ正犯ナリトシ教唆犯ニ付キ第一百六條ヲ適用セシムル趣旨ナリシトスルモ尙ホ前掲(1)ニ於テ述ヘタル缺點アルコトヲ免レス
- (4) 共犯行者ノ身分ニ因リテ構成スヘキ罪ヲ共犯シタルトキハ其身分ナキ者モ亦之ヲ其罪ノ共犯トスルヤ否ヤ 刑法ハ此點ニ付テモ亦何等ノ規定ヲ置カス隨テ學者種種ノ異論ヲ唱フト雖モ予ハ此點ニ付テハ現行法ノ解釋トシテ

モ尙ホ之ヲ共犯トスト断定スルコトヲ得ヘシト信ス蓋シ上述ノ如ク獨逸刑法ニ於テモ其正文ハ唯加重減輕ノ場合ノミヲ豫想スト雖モ之ヲ豫想スルヲ以テ罪ヲ構成スル要件タル場合ニハ成文ノ規定ト反對ノ處分ヲ爲スヘキコト明白ナリ我現行法ノ豫想スル所ハ加重減輕スヘキ場合ノミニ在リテ此場合ニ在リテハ主トシテ之ヲ共犯ニ及ホササル趣旨ヲ規定セルヲ以テ罪ヲ構成スル要件タル場合ハ之ヲ共犯ニ及ホス趣旨ナリト解釋スルニ苦マズ大審院ノ判例ハ身分ヲ構成の罪態ト爲ス罪ニ付テモ教唆犯又ハ幫助犯ニ付テハ此見解ヲ採リ共同實行犯ハ成立セサルモノト爲ス即チ略ホ上述シタルリストノ見解ト同一ナリト謂フコトヲ得

要スルニ此種ノ問題ニ付テハ規定ノ不備ナル丈ケ其丈ケ現行刑法ノ解釋上如何ナル異論ヲモ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ如何ナル奇說異論ヲモ主張シ得ル場合ニハ寧ロ理論上及ヒ實際上最モ妥當ナル說ヲ主張スルヲ便宜ナリトス而シテ刑法改正案ノ法制ハ少クトモ實際上最モ妥當ナルヲ以テ現行法ノ解釋トシテモ亦改正案ノ趣旨ヲ採ルコトヲ可ナリトス而シテ其之ヲ採用スル理由

如キハ立法論上此ノ如ク解セサルヘカラスト謂フヲ以テ是レリ此說ヲ維持スル理由ハ固ヨリ鞏固ナリト謂フヲ得スト雖モ之ヲ駁撃スルニ足ルヘキ鞏固ナル論據モナキコトモ亦疑ヲ容レズ

罪ヲ構成スル身分又ハ刑ヲ加重減輕又ハ免除スル身分トハ例ヘハ卑屬親タル身分公務員タル身分軍人タル身分ヲ謂ヒ刑法ニ於テ罪ヲ構成セシムル要件又ハ刑ヲ加重減輕又ハ免除スル要件タル身分ヲ謂フナリ從來我刑法學者ハ犯行者ノ年齢犯數又ハ治外法權ヲ享有スルヤ否ヤ等モ亦一種ノ身分ナリト解釋シタリト雖モ此種ノ事由ハ寧ロ人ニ關スル特別ノ事由ニシテ之ヲ其人ノ身分ト謂フヘカラスト獨逸刑法ハ資格又ハ身分關係ニ因リテ規定シ我刑法ノ所謂身分ト云フ語ニ比シテ廣義ナルニモ拘ハラス尙ホ「マイエル」<sup>マイエル</sup>「オルス」<sup>オルス</sup>ハウゼン<sup>ウゼン</sup>ノ如キハ此種ノ事由ハ人ノ資格又ハ身分關係ニ非スシテ純タル人ノ事由ナリト解釋セリ亦以テ予ノ解釋ノ根據ナキニ非サルヲ知ルヘシ身分ナル語ヲ此ノ如ク狹義ニ解ストセハ人ニ關スル特別ノ事由即チ犯行者ノ年齢又ハ犯數若クハ治外法權ヲ有スルニ因リテ輕重アルトキハ其事由ナキ者ニモ其輕キ刑又ハ重キ

刑ヲ科スヘキヤ曰ク大ニ然ラス蓋シ此種ノ事由ハマホニ等ノ所謂純タ人  
 的事由ニシテ其本質上唯其事由ノ存スル者ノミニ適用スヘキコト明瞭ナリ然  
 ラハ此種ノ事由ニ因リテ刑ニ輕重アルトキト雖モ尙ホ其事由ナキ者ニハ通常  
 ノ刑ヲ科セサルヘカラサルナリ其後論議ノ書ニ於テハ此種ノ事由ニハ「  
 共犯ニハ共犯アリ得ヘキヤ否ヤ」今場合ヲ分チテ之ヲ研究スヘシ  
 一 共同實行者ニハ共犯アリ得ヘキヤ 共同實行者ニ共同實行者アリ得ヘキ  
 コトハ論ヲ埃タヌ共同實行者ニ教唆犯及ヒ幫助犯アリ得ヘキヤ否ヤ尙ホ  
 疑似ノ餘地アリト雖モ予ハ共同實行者ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ之ヲ其  
 共犯ト爲スヘキモノナリト信ス  
 二 教唆者ニハ共犯アリ得ヘキヤ 教唆者ノ共同實行者ハ之ヲ教唆者トシテ  
 處罰スヘキコトハ一點ノ疑似ナシ然レドモ教唆者ハ幫助犯又ハ教唆犯ハ之  
 ヲ從犯又ハ教唆者トシテ處罰スヘキヤ予ハ此種ノ場合ニ於テハ從犯又ハ教  
 唆者ヲ間接ノ從犯又ハ教唆者トシテ處罰シ得ヘシト信スト雖モ異論ナキニ  
 非ス刑法改正案第七十二條第二項ニ於テハ「教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ」ト

三 規定ス即チ教唆者ノ教唆者ハ教唆者ノ教唆者タル資格ヲ以テ之ヲ正犯ニ準  
 セントセリ予ハ寧ロ「マイエル」等ノ所説ニ從ヒ此規定ヲ改メテ教唆者  
 莫ク教唆シタル者ハ之ヲ直接ノ教唆者ニ準スト爲サンコトヲ希望スルモノナ  
 リ  
 三 幫助犯ニハ共犯アリ得ヘキヤ 幫助犯ノ共同實行者ハ幫助犯トシテ之ヲ  
 處罰スヘク從犯ノ教唆者又ハ幫助犯ハ二ノ場合ニ於テ述ヘタルト同シ之ヲ  
 間接ノ教唆者又ハ幫助犯トシテ處罰スヘキモノトス刑法改正案ハ第七十三  
 條第二項ニ於テ從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準スト規定スト雖モ恐クハ是  
 コレ無用ノ文字ナラン  
 一人カ一箇ノ罪ニ付キ數箇ノ共犯行為ニ因リテ共犯シタルトキハ之ヲ一箇ノ  
 共犯行為ト爲スヘク一人カ一箇ノ共犯行為ニ因リテ數箇ノ罪ヲ共犯シタルト  
 キハ之ヲ數箇ノ共犯ノ觀想的俱發ト爲スヘシ而シテ觀想的俱發ノ何タルヤハ  
 一之ヲ後ニ詳述ス

第二章 共同實行

### 第二目 共同實行

共同實行ニ廣狹ノ二義アリ廣義ノ共同實行トハ數人カ箇箇ニ動作ヲ爲シテ結果ヲ發生セシムル場合ヲモ包含スヘシト雖モ成法上ノ共同實行限ニ狹義ノ共同實行トハ數人カ共同シテ動作ヲ爲シ以テ結果ヲ發セシメタル場合ノミヲ謂ヒ刑法第百四條ニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストハ此意ニ外ナラス共同實行者ハ普通ノ行爲者ト異ナリ罪ノ實行ノ全部ヲ行フ者ニ非ス是レ數人カ共同シテ一罪ヲ實行スルモノナレハナリ共同實行者ハ一罪ノ從犯ト異ナリ其共同シテ爲ス動作ハ必ス罪ノ實行ノ著手以上ノ動作ナラサルヘカラス是レ他人ノ罪ノ實行ヲ補助スルモノニ非サレハナリ然レトモ苟モ數人カ共同シテ罪ノ實行ヲ著手以上ノ動作ヲ爲シタルトキハ豫謀ノ結果共同シタルト又ハ罪ノ實行ノ際突然ニ共同シタルト問ヘス之ヲ共同實行者ナリト謂フヘク又苟モ數人中ノ一人カ罪ノ實行ノ著手以上ノ動作ヲ爲ス際之ヲ他ノ動作ニ合同セシメタルトキハ直チニ共同實行者ナリト爲スヘクアル

スハウゼン<sup>二</sup>ノルケル其他多數ノ學者ノ曰フ如ク其數人中ニ通謀アルコトヲ必要トセス又ハ或學者ノ曰フ如ク其一人カ他人ノ行爲ニ依リ共力セラルルコトヲ知ルコトヲ必要トセス

共同實行ハ重罪及ヒ輕罪ノミナラス違警罪ニ付テモ亦成立スルモノニシテ原則トシテハ總テノ罪ニ付テ成立スルコトヲ得ヘシト雖モ尙ホ一二ノ例外ナキ能ハス

- 一 不作爲罪 不作爲罪即チ法律カ一定ノ事實ノ發生ヲ防止セザルコトヲ處罰シタル罪ニ付テハ共同實行ハ成立セス蓋シ數人共同シテ若シ不作爲罪ヲ犯シタリトセンカ其數人ハ寧ロ獨立シテ箇箇ニ其不作爲罪ヲ犯シタルモノト謂フヘク之ヲ共同シテ犯シタルモノト見ルヘカラサレハナリ
  - 二 過失罪 過失罪ヲ共同實行シタル者ハ不作爲罪ノ共同實行者ノ如ク寧ロ別箇ノ獨立ノ行爲者ト認ムヘキモノナリ
- 「マイニル」如キハ褻褻淫<sup>一</sup>事實上數人ニ依リ犯スヘカラサル罪ナリトシ隨テ之ヲ例外ト爲スト雖モ予ハ褻褻ニモ淫淫ニモ共同實行者アリト信ス



共同實行モ亦共犯ノ一體様ナリ然ラハ予カ共犯ノ總說ニ述ヘタル共犯ノ成立要件ヲ具備スルニ非スニハ共同實行ハ存在スルコトナレ共犯ノ成立要件トハ(一)共犯スル行爲アルコト及ヒ(二)他人カ犯意ヲ要スル罪ヲ犯シタルコトノ二ナリト雖モ其第二ノ要件ハ共同實行犯ノ成立要件トシテ特ニ説明スルコトヲ要セザルヲ以テ今唯其第一要件即チ共同實行者ノ共犯スル行爲ノ意義如何ヲ説明スルニ止メントス

共犯スル行爲ノ何タルヤハ總說ニ於テ述ヘタル如ク共同實行犯ノ條件トシテモ之ヲ主觀及ヒ客觀ノ二方面ヨリ觀察スルヲ便ナリトス 共同實行犯ノ共同行爲ヲ主觀的ニ觀察スレハ犯意ナリ犯意ノミカ共犯スル行爲ノ主觀的意義タルモノニシテ過失アル意思ニ因リテハ共犯スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 過失アル意思 共犯ノ總說ニ於テ述ヘタル如ク過失アル意思ニ因リ他人ノ犯行ニ共力シタルトキハ理論上之ヲ共犯ナリト謂ヒ得アルニ非スト雖モ成法上之ヲ共犯ト爲サス共同實行犯モ共犯ノ一種ナリトモ過失アル意思

ニ因リテハ成法上共同實行者ト爲ルコト能ハサルコトモ亦明カナリ予ハ過失アル意思ニ因リテハ成法上所謂共犯スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス即チ成法上共同實行者タルコトヲ得スト謂フノニ敢テ過失アル意思ニ因リ多數人ハ一箇ノ結果ヲ發生セシムル共同原由ヲ爲ス場合ナシト謂フモノニ非ス此場合ハ「リスト」ノ所謂過失ニ因ル副實行犯ノ場合ニシテ此種類ノ行爲者ハ之ヲ共同實行者トセスシテ之ヲ箇箇獨立セル行爲者ヲ以テ見ルヘキモノナリ

- 二 犯意 犯意ハ共同實行者ノ共犯スル行爲ノ唯一ノ主觀的條件ニシテ共同實行者ノ犯意ハ(一)「共同實行者ノ犯意」ハ「共同實行者ノ犯意」ニシテ(1)自己ノ爲サントスル行爲ノ觀念ニハ「共同實行者ノ犯意」ニシテ(2)他人ノ爲サントスル行爲ノ觀念中ニ「共同實行者ノ犯意」ニシテ(3)自己ノ行爲ハ他人ノ爲サントスル行爲ヲ共同實行スルモノナラザル事實ヲ包含スヘシメテ以テ「共同實行者ノ犯意」ニシテ共同實行者ノ犯意

共同實行者ノ共犯トシテ行爲ヲ客觀的ニ觀察スルハ犯意ヲ要スル罪ヲ實行シ著

手以上ノ行為ナリ學說上ヨリ論スレハ共同實行者ニ付テハ主觀主義ト客觀主義トノ區別アリテ依リテ以テ幫助者ト之ヲ區別セントス

- (1) 主觀主義 主觀主義者ハ唯意思ノ方面ノミニ依リテ協力カ共同實行犯ナリヤ又ハ幫助犯ナリヤヲ決定セントシ外部ノ行動ノ種様ハ全然何等ノ影響ナシト爲ス而シテ此主義ヲ採ル者ノ中ニ就キ最醇ナル者ヲ「フォンゾリ」トス氏ハ「アニムス」アラクトリス「自己ノ行動又ハ利益ナリトノ意思ヲ有スル者ハ共同實行者ナリトシ「アニムス」シイ」他人ノ行動又ハ利益ナリトノ意思ヲ有スル者ハ幫助者ナリト爲ス此主義ハ「共同實行者」ニ依リテ「共同實行犯」ニ依リテ「共同實行犯」ト云フ刑法第百四條ノ語句ニ適應セズ
- (2) 客觀主義 此主義者ハ表現シタル行動ノ種様ニ依リテ共同實行犯及ヒ幫助犯ヲ區別ス或ハ犯意ハ分割スヘカラサルヲ以テ即チ各共同實行者ハ當該罪ノ全部ノ觀念又ハ希望ヲ有セサルヘカラサルヲ以テ此主義ハ是ナラスト

曰フ者ナキニ非スト雖モ有力ノ此難トシテ之ヲ承認スルコトヲ得ス

- (イ) 實行行為ヲ爲ス者ハ常ニ共同實行者ニシテ準備行為ヲ爲ス者ハ常ニ幫助者ナリト爲ス見解「メルキル」リスト
- (ロ) 比較的重要ナル協力ヲ爲ス者ハ共同實行者ニシテ比較的輕微ナル協力ヲ爲ス者ハ幫助者ナリト爲ス見解「フランク」 此見解ハ行為者ハ結果ニ原因ヲ與フル者ニシテ教唆者又ハ幫助者ハ結果ニ條件ヲ與フル者ナリトノ斷定ヲ前提トス
- (ハ) 實行ノ際ニ於テ協力ヲ爲ス者ハ共同實行者ニシテ實行ノ前ニ於テ協力ヲ爲ス者ハ幫助者ナリト爲ス見解「フラス」
- (3) 混同主義
- (4) 共同實行犯ニ付テハ原則トシテ主觀主義ヲ採用スト雖モ實行ノ際協力スルコトヲ要スト爲ス見解「ホリス」ハ立ゼン此見解ニ依リハ「自己ノ行動ナリトス意思」ニシテハ罪態タル行為ヲ爲スモ之ヲ幫助者ト謂ハサルヘカラズ同實行犯ニ付テハ主觀主義ト客觀主義トノ區別ニ依リテ

(ロ) 共同實行犯ニ付テハ主觀主義ヲ採用スト雖モ罪態タル行為ヲ爲スコトヲ要スト爲ス見解(ローニヤク)ハ、共同實行犯ニ付テハ主觀主義ヲ採用スト雖モ罪態タル行為ヲ爲スコトヲ要スト爲ス見解(ローニヤク)ハ、予ハ客觀主義中(イ)ノ見解ヲ採用ス然ラズ罪ノ實行ノ著手以上ノ行為トハ如何ナル行為ナリヤト云フニ是レ各本條ニ記載セル罪ニ就キ簡簡ニ觀察セザルヘカラサル問題ナレトモ其大體ノ説明ハ罪ノ未遂ノ説明中ニ論シタルモノト同一ナリ即チ一般ノ性質ヨリ觀察シテ結果ヲ惹起スルニ付キ缺クヘカラサル要件ト認ムヘキ行為ヲ謂フモノニシテ所謂複雜罪ニ付テハ其第一ノ行為ヲ爲スコトヲ謂ヒ所謂情狀重キ特別罪ニシテ其情狀ヲ重クスル原因ハ一ニ行為者ノ行為ニ基クモノニ付テハ其原因カ罪ヲ實行後ニ發生セル場合ナルト然ラサル場合ナルトヲ問ハズ其情狀ヲ重カラシメタル行為ヲ爲スコトヲ謂フ非ニ範圍共同實行者之ヲ「ラスト」所謂副實行犯又ハ同時實行犯ト混同スヘカラズ其同實行ハ術モ罪ノ實行ノ著手以上ノ行為ナレハ總令輕微若クハ必要ナラサル行為ナリトスルモ成立スヘシト雖モ同時實行犯ハ結果ヲ發生セシムル完全ナル要件タルヘキ行為アルニ非ハシハ成立セザルモノトスルハ、

### 第三目 教唆

教唆トハ他人ヲシテ犯行ヲ爲ス意思ヲ生セシムルコトヲ謂ヒ理論上其犯行カ重罪ナルト輕罪ナルト又ハ違警罪ナルトヲ問ハス又ハ他人カ事實上其決心ニ原因シテ犯行ヲ爲シタルト否トヲ論セスシテ成立シ得ヘシト雖モ成法上教唆犯ノ成立スルニハ尙ホ種種ナル法定要件ヲ具備セザルヘカラス或ハ教唆トハ人ヲ教唆スル罪ナリト曰フ者アリ然レトモ人ヲ教唆スル罪ニハ概チ二様ノ區別アリ曰ク所謂教唆罪曰ク教唆犯是ナリ所謂教唆罪トハ法律カ特ニ明文ヲ以テ教唆ノ行為ヲ處罰スルモノ例ヘハ刑法第二百二十五條ノ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル罪第三百二十條ノ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル罪第三百二十一條ノ自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル罪第三百三十三條ノ懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル罪ノ如キハ共犯ノ一種ナル教唆犯ニ非スシテ全ク獨立ナル一罪ナリ教唆犯トハ單ニ刑法總則ノ適用ニ依リ簡簡ノ明文ヲ缺タスシテ成立スル罪ノ體様ナリ予ハ共犯ヲ

ル教唆犯ヲ説明セントスル者ニシテ教唆罪ニ付キ説明スル者ニ非ス故ニ左ニ述フル所ハ唯教唆犯ノミニ適用スヘキモノト知ルヘシ

ハ之ヲ處罰スルコトヲ得ス教唆者ハ單純ニ他人ノ犯行ニ附隨スル者ニ非ス故ニ論理上行爲者ノ行爲ノミニ因リテ教唆者ノ責任ヲ決スルコトヲ得ス教唆者カ單純ナル附隨者ト異ナルハ自己ノ行爲ヲ以テ協力スル點ニ存シ教唆者カ行爲者又ハ發頭人ト異ナルハ結果ヲ惹起セントスル意思アルニ拘ハラス自ラ其結果ヲ惹起スル直接ノ動作ヲ爲サザル點ニ在リトス

教唆犯ノ成立要件ハ共犯ノ總說ニ述ヘタル如ク他人ヲシテ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル事意思ヲ生セシムル行爲及ヒ他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル事實ノ二ナリ

一 他人ヲシテ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セシムル行爲

(イ) 主觀的觀察 教唆者ハ他人即チ被教唆者ヲシテ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セシムル意思ヲ有スルコトヲ要ス教唆ハ共犯ノ總說ニ於テ概論シタ

ル如ク理論上過失アル意思ニ因リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘク巴威爾千八百十三年ノ刑法ノ如キハ之ヲ法律上ノ教唆犯トシテ處罰スル如シト雖モ我刑法上ニ於テハ之ヲ教唆犯トセス教唆者ニ必要ナル犯意ハ自己ノ動作ニ因リ被教唆者ヲシテ一定ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セシムヘキ事實ノ觀念ニ因リテ成立ス即チ(1)自己ノ行爲ノ觀念(2)他人ノ行爲ノ觀念及ヒ(3)自己ノ行爲ハ他人ヲシテ一定ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セシムヘキモノナル事實ノ觀念ニ因リテ成立ス而シテ其犯意カ一定ノ人ヲ教唆スルニ在ルト一團ノ人衆ヲ教唆スルニ在ルトヲ問ハス又犯行ニ著手セントラテ教唆スルニ在ルト既ニ實行ニ著手セル犯行ノ繼續ヲ教唆スニ在ルトヲ論セス

(ロ) 客觀的觀察 教唆者ハ他人即チ被教唆者ヲシテ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セシムル動作ヲ爲シ其動作ノ結果被教唆者ハ重罪又ハ輕罪ヲ犯ス意思ヲ生セタルヘカラス若シ此種ノ動作ナク又ハ此種ノ結果ナシトセンカ法律上ノ教唆犯ハ成立スルコトナシ蓋シ純理ヨリ論スレハ此場合ト雖モ若シ一人カ他人ニ對シ教唆ノ實行ノ著手以上ノ行爲ヲ爲シタルトキハ教唆ノ未

遂トシテ處罰スヘキカ如シト雖モ上述ノ如ク共犯ノ一般ノ性質ハ一種異様ノ行為者ニシテ且一種異様ノ附隨者ナルヲ以テ教唆犯モ法律上他人カ其教唆セラレタル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時期若クハ他人カ其重罪又ハ輕罪ノ實行ノ著手以上ニ屬スル行為ヲ爲シタルニ拘ハラズ意外ノ障礙ニ因リ之ヲ遂ケサル時期ニ於テ其教唆ノ既遂ト爲リ特ニ教唆ノ罰スヘキ未遂ノ體様ヲ生スルコトナシ

所謂被教唆者ヲシテ重罪又ハ輕罪ヲ犯スノ意思ヲ生セシムル動作トハ何ソヤ獨逸刑法第四十八條ニ曰ク何人ト雖モ贈與又ハ約諾ニ依リ又ハ強迫ニ依リ威權又ハ暴力ノ濫用ニ依リ故意ヲ以テ錯誤ニ陷レ又ハ錯誤ヲ増進セシムルニ依リ又ハ其他ノ手段ニ依リ他人ヲシテ可罰行為ヲ犯サシメタル者ハ教唆者トシテ之ニ科刑スト我刑法ハ教唆ノ動作ヲ例示セスト雖モ獨逸刑法ノ例示スル如キ手段ハ悉ク教唆ノ動作タルモノト信ス即チ教唆ノ動作ハ成ハ強制手段或ハ詐欺ノ手段ニ依リテ成立スヘシト雖モ強制スル動作ニシテ若シ他人ヲシテ有形無形ノ自由ヲ失ハシメ若クハ權利衝突ノ場合即チ所謂危

急狀況ニ立タシムルニ至リ又ハ詐欺スル動作ニシテ若シ他人ヲシテ重要ナル錯誤ニ陥ラシムルニ至ラハ是レ間接行為者ノ動作ナルヘクシテ教唆ノ動作ニ非サルコトハ勿論ナリトス

所謂他人即チ被教唆者ハ必ス犯罪ノ主體能力ヲ有スル者ナラサルヘカラス「オルスハウゼン」等ノ如キ多少ノ異說者ナキニ非サレトモ犯罪ノ主體能力ナキ者ヲ教唆シテ人ヲ殺サシメタリトセハ恰モ刀劍ヲ以テ人ヲ殺シタルト同シタ犯罪ノ主體能力ナキ者モ刀劍モ共ニ一種ノ道具即チ犯行ノ用ニ供セラレタル物タルニ過キサルヲ以テ「イエル」<sup>二</sup>「グーヤ」<sup>一</sup>ノ如キハ犯罪ノ主體能力ナキ者ニ對シテハ法律上ノ教唆ヲ爲ス能ハスシテ此種ノ者ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ所謂間接行為者トシテ之ヲ所謂スヘキモノト爲セリ

二 他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル事實 刑法第百五條ニ曰ク「入テ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ云云」然ラハ教唆者カ法律上ノ教唆者タルニハ他人カ犯意ヲ要スル罪ヲ犯シタルコトヲ必要トスルノミナ

ラス尙ホ其罪ハ重罪又ハ輕罪ナルヘクシテ違警罪ナルヘカラス蓋シ教唆ハ被教唆者カ教唆セラレタル罪ヲ犯シタルニ非スシテ之ヲ法律上ノ教唆犯ト爲スヘカラザルヤ否ヤノ問題ハ從來論争セラルルモノニシテ教唆者ヲ以テ精神的發頭人ト爲ス論者及ヒ多數ノ獨逸聯邦ノ刑法ハ教唆ノ行爲アラハ之ヲ法律上教唆犯トシテ處罰スル旨ヲ定メ英吉利法ハ所謂無効ノ教唆即チ教唆行爲ノミヲ常ニ獨立ノ一罪トシテ處罰セリト雖モ予ハ理論上原則トシテハ此法制ヲ認ムルコトヲ否認スルノミナラス刑法ハ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ト明記スルヲ以テ我刑法ノ解釋論トシテハ全然此法制ヲ辯護スル餘地ナシト信ス故ニ教唆ノ結果トハ被教唆者ニ對シテ犯行ヲ爲ス意思ヲ生セシムルコトナリト雖モ此結果ハ被教唆者カ全然罪ヲ遂行シタル場合又ハ法律上ノ未遂犯タルヘキ程度マテ遂行シタル場合ニ於テノミ之ヲ處罰スヘキモノトス然ルトモ上述セル所ハ唯刑法上ノ原則ノミ立法者ニシテ若シ之ニ反對スル規定ヲ設クルヲ必要ナリトセハ明文ヲ以テ其旨ヲ規定スルコトヲ妨ケザルハ勿論ナリ

教唆犯ノ成立スルニハ他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルハ教唆者ノ行爲ニ原因シタルコトヲ必要トス即チ教唆犯ノ成立スルニハ教唆者ノ行爲ハ原因ニシテ被教唆者ノ決意ハ其結果ナルコトヲ要ス若シ然ラハ予ハ教唆犯ノ成立ニ付キ左ノ二斷案ヲ得ヘシ

(イ) 教唆ノ動作アリタル場合ト雖モ被教唆者ノ決意ノ發生原因タラザルキハ教唆犯ハ成立セズ教唆ノ動作アリタル場合ニ於テモ被教唆者ノ決意ノ發生原因タラザル場合ニアリハ全然何等ノ關係ヲモ有セザル場合ニシテ一ハ原因タラスト雖モ多少被教唆者ノ決意ヲ増進セシメタル場合はナリ第一ノ場合ハ例ヘハ既ニ甲ヲ殺害セント決意シタル者ニ對シ甲ヲ殺害セントコトヲ教唆スル場合ノ如ク教唆ト被教唆者ノ犯行トハ全然無關係ナルヲ以テ之ヲ法律上ノ教唆ト謂フコトヲ得ス

第二ノ場合ハ例ヘハ既ニ甲ヲ殺害セント決意シタリト雖モ尙ホ多少躊躇スル者ニ對シ甲ヲ殺害セントコトヲ教唆シタル場合ノ如ク教唆ハ被教唆者ノ犯行ノ原因タラスト雖モ時ニ其犯行ヲ補助スル作用ヲ有セザルニ非サザルヲ以

テ若シ此作用ヲ有シタリトセム之ヲ從犯トシテ處罰スベク此作用ヲ有セズトスレハ全然無罪タルヘキナリ

(ロ) 教唆ノ動作ハ被教唆者ノ犯意ヲ生セシムル原因タリト雖モ被教唆者ノ犯行ハ教唆セシ犯行ニ比シ輕重又ハ多寡ノ差異アルトキハ其教唆シタル罪ノ教唆犯又ハ現ニ被教唆者ノ行ヒタル罪ノ教唆犯ノミ成立ス此場合ハ所謂被教唆者ノ過剰ノ犯行ト謂フモノニシテ過剰ノ犯行ナルヤ否ヤヲ決スルニハ常ニ教唆ノ意義ニ依ルヘク決シテ教唆ノ言辭ニ依ルヘカラス被教唆者カ若シ教唆者ノ教唆シタル罪ヨリ數量ニ於テ多數ナル罪ヲ犯シタルトキ又ハ性質ニ於テ重キ罪ヲ犯シタルトキハ教唆者ハ其教唆シタル罪ノ分量又ハ性質ニ於テノミ教唆者タルヘク被教唆者若シ數量ニ於テ少數ノ罪ヲ犯シタルトキ又ハ性質ニ於テ輕キ罪ヲ犯シタルトキハ教唆者カ爲シタル多數ノ罪又ハ重キ罪ニ對スル教唆ハ當然少數ノ罪又ハ輕キ罪ニ對スル教唆ヲ包含スヘキヲ以テ教唆者ハ被教唆者カ現ニ行ヒタル罪ノ分量又ハ性質ニ於テノミ教唆者タルヘシ而シテ目的物ノ錯誤又ハ行爲ノ不奏功ノ場合ニ於テハ上述ノ

一般ノ原則ニ從ヒ或ハ罪アリトシ又ハ罪ナシトセサルヘカラス刑法第百八條ハ此場合ニ付キ規定ス而シテ其趣旨ニ至リテハ毫モ間然スヘキ所ナシト雖モ其用語ハ極メテ不當ナルコトヲ免レ

(1) 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リテ事ヲ指定シト云フハ蓋シ事ヲ指定セサル教唆即チ漠然タル犯行ノ教唆ニ相對セシムル意ナルニシト雖モ此場合ニ於テ教唆犯ノ成立不成立ヲ決スル標的ハ事ヲ指定シ又ハ指定セサルコトニ在ラズシテ犯行ハ教唆ニ原因セシヤ否ヤニ在リ換言スレバ事ヲ指定シテ教唆ヲ爲シタル場合ニ於テ犯人指定以外ノ罪ヲ犯シ又ハ指定以外ノ方法ヲ採用シタルト雖モ是レ犯行ト教唆トニ原因結果ノ關係ヲ缺如スルヲ以テ教唆犯成立セザルナリ然ラズ刑法ノ「事ヲ指定シ」タル語句ハ全然無用ニ屬スト信ス

(2) 「教唆ニ乘シ」乘シト云ハハ被教唆者ノ犯行カ教唆シタル犯行ヨリ輕キ場合ヲ除外セシヤノ疑ナキ能ハサルノ理ナラズ教唆ニ乘シテ本條ノ行爲ヲ爲シタルト否トハ其責任ニ何等ノ關係ナラズ唯教唆ニ原因セル犯行ナ

ルコトヲ必要トスルノミ而シテ教唆ニ原因セル犯人ナクハ教唆犯成立セ  
 ナルコトハ教唆犯一般ノ原則ナリトセハ此語句モ亦不用ナリト謂ハサル  
 (ヘカラス  
 (3) 「云云ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス」刑ヲ科スルニ非シテ教唆犯ヲ成立セシ  
 ムルナリ刑法ノ語句ニ拘泥シテ解釋セハ所犯教唆ニタル罪ヨリ重キトキ  
 又ハ輕キトキト雖モ其全部ヲ教唆ナル一種ノ罪ト爲スニ拘ハラス其一部  
 ニ對シテノミ刑ヲ科スルヤノ疑似ナキ能ハス  
 要スルニ刑法第百八條ハ文辭上瑕疵多キノミナラス上述ノ如ク明文ナシト  
 雖モ一般教唆ノ本質上當然判明スヘキ事項ニ屬シ現ニ獨逸刑法其他歐洲諸  
 國ノ刑法ニハ概テ此種ノ規定ナシト雖モ我刑法第百八條ノ規定ノ趣旨ニ依  
 リテ活動ス然ラハ刑法ニ於テモ全部本條ヲ削除スルコトヲ可トスル如シ刑  
 法改正案ハ此意義ヲ以テ別ニ第百八條ニ相當スル規定ヲ置カザリシナリ

第四目 幫助

幫助トハ他人ノ犯行ヲ容易ニスル作用ヲ謂ヒ刑法ハ或種ノ幫助ヲ以テ一種ノ  
 共犯行爲ト爲シ第百九條ニ之ヲ規定シタリ而シテ教唆ニ付キ述ヘタル如ク所  
 謂罪ノ幫助ヲ罰スルニモ二様ノ主義アリ一ハ一罪ノ從犯トシテ之ヲ罰スルモ  
 ノニシテ此主義ニ付テハ以下ニ之ヲ説明セントスル所ナリ一ハ獨立ノ一罪ト  
 シテ一罪ノ幫助ノ行爲ヲ罰スルモノ例ヘハ刑法第百二十七條又ハ第百四十六  
 條ノ罪ノ如シ一ハ刑法上明カニ之ヲ從犯ト謂ヒ一ハ學說上或ハ幫助罪若クハ  
 他人ノ犯行ニ付テ準備罪ト謂フヘキモノナルヲ以テ二者ノ區別ハ教唆犯及ヒ  
 所謂教唆罪ノ區別ノ如ク難解ナラスト雖モ區別ノ必要ニ至リテハ全然教唆ノ  
 場合ニ同シ

幫助トハ他人ノ犯行ヲ容易ニスル作用ヲ謂ヒ刑法ハ或種ノ幫助ヲ以テ一種ノ  
 共犯行爲ト爲シ第百九條ニ之ヲ規定シタリ而シテ教唆ニ付キ述ヘタル如ク所  
 謂罪ノ幫助ヲ罰スルニモ二様ノ主義アリ一ハ一罪ノ從犯トシテ之ヲ罰スルモ  
 ノニシテ此主義ニ付テハ以下ニ之ヲ説明セントスル所ナリ一ハ獨立ノ一罪ト  
 シテ一罪ノ幫助ノ行爲ヲ罰スルモノ例ヘハ刑法第百二十七條又ハ第百四十六  
 條ノ罪ノ如シ一ハ刑法上明カニ之ヲ從犯ト謂ヒ一ハ學說上或ハ幫助罪若クハ  
 他人ノ犯行ニ付テ準備罪ト謂フヘキモノナルヲ以テ二者ノ區別ハ教唆犯及ヒ  
 所謂教唆罪ノ區別ノ如ク難解ナラスト雖モ區別ノ必要ニ至リテハ全然教唆ノ  
 場合ニ同シ

幫助犯ノ成立要件ヲ重罪又ハ輕罪ニ屬スル他人ノ犯行ヲ容易ナラシムヘキ行  
 爲及ヒ他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル事實ノ二ナリ事實ニ從  
 一 重罪又ハ輕罪ニ屬スル他人ノ犯行ヲ容易ナラシムヘキ行爲

(4) 主觀的觀察 從犯ハ幫助ヲ爲ス犯意アルコトヲ要ス幫助ヲ爲ス犯意ト  
 ハ他人ノ一定ノ犯行ヲ幫助スル意思即チ(1)自己ノ行爲ノ觀念(2)他人ノ行爲



ノ觀念(3)他人ノ行爲ハ自己ノ行爲ニ依リ補助セラルルヘキ事實ノ觀念ヲ謂フ  
 (ロ) 客觀的觀察 從犯ノ成立スルニハ被補助者ノ重罪又ハ輕罪ニ屬スル犯  
 行ノ準備ニ屬スル動作ヲ爲シ其動作ノ結果其犯行ニ付キ事實上被補助者ヲ  
 補助シタルコトヲ要シ上述ノ動作又ハ結果ナケンカ成法上或ハ事實上從犯  
 ハ成立セス所謂他人ノ犯行ヲ補助スル動作トハ刑法第九條ニ依レハ器具  
 ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ行爲ヲ以テ犯行ヲ容易ナラシメタル者  
 ト曰フ獨逸刑法ニ依レハ思慮又ハ行爲ヲ以テ補助ヲ爲シタル者ト曰フ然ラ  
 ハ我刑法ニ所謂器具ヲ給與スル動作ハ獨逸刑法ニ所謂行爲ヲ以テスル動作  
 ニ該當スヘク我刑法ニ所謂誘導指示スル動作ハ獨逸刑法ニ所謂思慮ヲ以テ  
 スル動作ニ該當スヘク要スルニ補助ノ動作ハ廣ク肉體上ノ動作及ヒ精神上  
 ノ動作ヲ包含スルモノト謂フヘシ然レトモ肉體上及ヒ精神上ノ動作ト謂ハ  
 ハ是レ動作ノ全體ヲ謂フモノニシテ以テ補助ノ動作ノ何タルヤヲ了解セシ  
 ムルニ足ラス然ラハ補助ノ動作トハ正犯ノ犯行ノ準備的動作ニ限定スヘキ  
 ヤ否ヤ「リスト」ノ如キハ必ス準備的動作ナルコトヲ必要トスト斷定スト雖モ

予ハ上述ノ如ク共犯ハ唯其知リタル自己ノ行爲及ヒ他人ノ行爲間ノ關係ニ  
 付テノミ責任ヲ負擔スヘキモノナリト斷定セシヲ以テ勢ヒ補助ノ動作ヲ準  
 備的動作ニ限定スル能ハス即チ補助ノ動作ハ其準備的動作ニ對シテ  
 (1) 通常ノ場合ニ於テ準備的動作ヨリ成立シタル斷定ハ其準備的動作ニ對シテ  
 (2) 特別ノ場合即チ從犯カ自己ノ行爲ハ他人ノ犯行ニ對シテ補助關係ヲ有  
 (3) スト觀念シタルシ場合ニ於テハ實行の動作ニ依リテモ亦成立スル人ハ  
 此斷定ノ結果ハ從犯ノ動作モ準備的及ヒ實行の動作ヨリ成立シ得ヘク隨  
 テ共同實行犯ノ動作ト異ナルハ唯共同實行犯ノ動作ハ準備的動作ヨリ成立  
 シ能ハサル點ニ在ルノミ而シテ近時多數ノ立法例ハ客觀的の面ニ於テハ共  
 同實行犯及ヒ補助犯間ニ何等ノ區別ヲモ認メタル傾向ヲ呈スルニ至リタリ  
 其特ニ顯著ナルモノヲ千八百九十八年ノ諸威國刑法草案トス同法第五十八  
 條ニ曰ク數人罰スヘキ目的ニ協力シタル場合ニ於テ各箇人ノ加功カ主トシ  
 テ他ノ關係者ニ從屬シタルコトニ依リテ惹起セラレタルトキ又ハ他ノ關係  
 者トノ比較上輕微ナル效用ヲ有シタルトキハ云云ト是レ全然共同實行犯ト

幫助犯トノ區別ヲ認メサルモノニ外ナラス若シ然ラム我刑法分明文上其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ云云ト規定スルハ近世ノ立法ノ傾向ト書論スル觀念ヲ採用シタルモノニシテ聊カ膠柱ノ嫌ナキ能ハス刑法改正案ハ第七十四條ニ於テ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス下規定ス蓋シ明文ニ於テハ幫助スル動作ヲ必要トスルコトノミヲ定メ幫助スル動作ノ何タルヤム全然學說ニ一任セルナリ

二 他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル事實 從犯モ亦教唆犯ノ如ク

- (1) 他人カ犯意ヲ要スル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルコトヲ要ス故ニ他人ノ過失ニ依ル犯罪又ハ違警罪ニ屬スル他人ノ犯行ヲ幫助シタル者ハ法律上之ヲ幫助犯ナリトセス又ハ重罪又ハ輕罪ニ屬スル他人ノ犯行ヲ幫助シタル者ト雖モ其他カ全然之ヲ遂行シ又ハ法律上罰スヘキ未遂ノ程度マテ之ヲ遂行スルニ非スンハ法律上之ヲ幫助犯ナリトセス
- (2) 他人カ犯シタル重罪又ハ輕罪ハ幫助ニ依リ事實上幫助セラタルコト

要スルコトハ教唆犯ニ付キ説明セシモノト同理ナリ故ニ  
 (イ) 事實上幫助シタルトキニ非サレハ法律上幫助犯ハ成立セス  
 (ロ) 事實上幫助シタルト雖モ被幫助正犯ノ犯行カ幫助セントシタル犯行ニ比シ輕重又ハ多寡ノ差異アルトキハ其幫助セントシタル罪ノ幫助犯又ハ現ニ被幫助者ノ行ヒタル罪ノ幫助犯ノミ成立ス刑法第百九條但書ニハ正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減スト或ハ教唆犯ニ付テノ第百八條第二號ノ如キ規定ヲ缺如スルヤノ疑ナキ能ハスト雖モ第百九條ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減スルヲ以テ行為者カ現ニ行フ所ノ罪幫助犯ノ知ル所ヨリ輕キトキハ則チ行為者ノ刑亦隨テ輕ク此輕キ罪ヨリ一等ヲ減シタルモノハ即チ幫助犯ニシテ幫助犯ニ付テハ第百八條第二號ノ如キ規定ヲ必要トセザルナリ刑法改正案ハ教唆犯ニ付キ説明セシ理由ニ因リ幫助犯ニ付テモ全ク刑法第百九條但書ノ如キ規定及ヒ第百八條第二號ニ該當スル如キ規

幫助犯ハ種種ニ之ヲ區別スルコトヲ得

- 一 多大ノ幫助及ヒ輕微ノ幫助ヲ以テ區別スルコトヲ得
- 二 肉體の幫助及ヒ精神の幫助ニ依リテ區別スルコトヲ得
- 三 事前的の幫助及ヒ同時の幫助ノ事前的の及ヒ同時の幫助トハ幫助九犯行前ニ行ハレタルト然ラサルトニ因リテ區別スル者或ハ事後從犯ナル名目ヲ用ヒテ犯行後ノ幫助即チ贓物ニ關スル罪人贓物ハ罪等ヲ表示スルコトナクモ非スト雖モ予ハ共犯一般ノ性質ハ事前ノ共犯ナリト解スルヲ以テ事後從犯モ亦之ヲ從犯ノ一種ト爲ス
- 四 積極的の幫助及ヒ消極的の幫助ニ依リテ區別スルコトヲ得

第五目 餘論

共犯ニ極似スト雖モ而モ共犯ニ非タルモノハ四ノ方ノ所謂副實行犯所謂必要の共犯所謂事後共犯及ヒ所謂犯行團體員是ナリ

第一 副實行犯 副實行犯ハ一審口多數實行犯ト稱スルニ依リテ明確ニ其意義

茲ニ暗殺ト云ヘルハ兵士又ハ箇人ノ形狀ヲ變シテ敵入ヲ詐リ其管中ニ忍セ入リ將帥其他ヲ殺害スルモノニテ斯ル行爲ヲ爲ス者ハ勿論斯ル刺客ヲ使用シ獎勵シ又ハ補助スルハ不名譽ニシテ憎ムヘキ行爲ナルカ故ニ決シテ之ヲ行フニ不能ハス然レトモ暗殺トハ全ク別ニシテ例ヘハ軍服ヲ著シタル兵士若クハ軍人ノ一團カ暗夜ニ乘シ竊ニ敵營ニ入りテ將帥ヲ殺害スルカ如キハ決シテ暗殺ニ非スシテ却テ勇敢ノ行爲ナリ

第二 毒藥 毒藥ヲ使用スルハ古來戰爭ニ於テ行ハレタルモノナリ

第三 諸學者ノ之ニ非難ヲ加ヘ開明國人ノ行爲ニ反對スルモノトシ諸國ノ國法ニ於テモ之ヲ禁スルニ至レリ

第四 禁煙 禁煙ノ所タリ凡テ敵國人ノ生命及ヒ財産ニ對シ有力ナル加害ノ武器其他ノ物件ヲ發明シテ之ヲ使用スルハ適法ナレトモ毒藥ノ武器ヲ用フルハ戰爭ノ慘酷ヲ加フルニ止マリ既ニ負傷シ戦闘ニ堪ハザル者ニ苦痛ヲ生スルニ過キタルカ故ニ毒藥ノ使用ヲ禁スル所以ナリ

第五 毒藥中ニ之ヲ用フルハ嚴禁シ殊ニ飲用水又ハ食物飲料ニ毒藥ヲ使用スルハ一層

開國公法(續編) 支那國國ノ法則 開國ニ關スル法則 敵人ニ對スル加害ノ程度

嚴禁スル所トス何下ナシハ前述ノ理由ニ因テ是レ管ニ戰國者ニ對シテ不必要ナルノミナラス之ヲ用タルハ詐僞ノホルト之ニ伴フ慘酷ハ無事ノ人民又其害ヲ被ルヘキ危險ナルヲ以テ亦又同ニノ理由ニ因リ平和會議ニ於テ締盟國ハ窒息セシムヘキ瓦斯又其有毒質ノ瓦斯ヲ撒布スルヲ唯一ノ目的トシテ射物ノ使用ヲ禁止スルニ宣言ヲ爲セテ其ノ實ニ於テ戰國ハ此等ノ目的ヲ以テ射物第三 不必要ノ苦痛ヲ與フル彈丸 戰爭ハ敵ノ兵力抵抗ヲ殺スル以テ目的トスルカ故ニ千八百六十八年西班牙ヲ除ク外歐洲強國ハ露國「ベネチア」代表者ヲ送リ四百瓦以下ノ破裂物ヲ含有スル彈丸ヲ戰爭ニ用ヒサル宣言ヲ爲セリ此宣言ニハ諸國ノ加盟セタルモノアレトモ方今ノ慣例上之ニ加盟セタルヲ利用シテ同一ノ彈丸ヲ用ヒ不必要ノ苦痛ヲ與フルハ到底爲スヘカラサルニ至リ此規定ハ自ラ國際公法ノ一部ヲ爲シ「ブル」モ宣言ニ於テモ之ヲ援用シ又武器彈藥其他戰爭用ノ物件ニシテ不必要ノ苦痛ヲ與フルモノヲ禁ストル規定アリ陸戰例規ニ於テモ無益ノ苦痛ヲ與フヘキ武器彈藥其他ノ物質ヲ使用スルヲ禁ストル明言セリ爾テ彈丸ノ外ニ鐵片其他ノ金屬又ハ硝子等ヲ發射スルハ

般ニ許ササル所トス又彈丸ト雖モ不規則ナル形ヲ爲シタル物ヲ發射スルハ負傷者ニ苦痛ヲ與フルノ理由ヲ以テ不法トシ先年平和會議ニ於テモ英國ノ埃及遠征ニ用ヒタル「ダム」丸ト稱シ人體ニ入りテ其ノ一端ノ膨脹スル彈丸ト非難シ遠ニ宣言ヲ以テ締盟國ハ外包硬固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ外包モス若クハ其外包ニ削刻シタルモノノ如キ人體ニ入り容易ニ開展シ若クハ偏平ト爲ルヘキ彈丸ノ使用ヲ互ニ禁スルコトト爲シ其外締盟國ハ宣言ヲ以テ輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル他ノ方法ニ依リ投射物及ヒ爆裂物ヲ放射スルコトヲ五箇年間禁止スルコトト爲セリ此等ノ宣言ハ未タ其規定ヲ全ク國際公法ト云フ能ハスト雖モ間然スル所ナキヲ以テ遽カラスシテ其實行ヲ觀ルニ至ルヘク斯法ノ法則ト爲ルヘキカ如シ要スルニ方今武器彈丸ノ使用ニ付適法ト否トノ較ルルハ其破壊力ノ大小ニ非スシテ敵國ノ抵抗力ヲ減スル程度ニ比シ其與フル苦痛ノ多小ニ由ルモノナリ例ヘハ水雷ノ如キハ軍艦全體ヲ沈没セシムレトモ其使用正常ニシテ彈丸ニ硫酸ヲ附著スルカ如キハ斯法上大ナル犯則トス

第四 破壞 昔時ノ戰爭ニ於テハ敵國領土ニ對シ無制限ノ破壞ヲ爲シタリシカ方今ハ全ク之ニ反シ交戰國ハ敵國ノ財産及ヒ其農工業等ヲ保護スヘキ責任ヲ有スルコトト爲レリ然レトモ破壞ハ戰爭ニ於テ絕對的ニ禁セラレタルニ非シテ之ヲ行ヒ得ヘキ場合アリ「グロシエ」ニ於テ我要求ヲ容ルルニ至ラシムヘシキ小時間ノ破壞ハ爲シ得ヘシトシ「パタル」ハ敵軍ヲ防衛シ若シ野蠻人ヲ懲戒スル爲メニ破壞ヲ行フハ禁スル所ニ非スト論セリ今日ニ於テハ戰爭ニ於テ破壞ヲ行ヒ得ヘキ場合ト常ニ行フヘカラサル場合並ニ事情ニ因リテ入隊之ヲ行ヒ得ヘキモノトテ區別スル必要アリテ常ニ之ヲ行ヒ得ヘキ例ヘハ防禦ノ所ヲ堅固ニシ又ハ敵軍ヲ攻撃若シハ自國軍ノ防禦ヲ容易ニスル爲メ軍隊ノ進退ヲ自由ト爲スカ如キ作戰上ニ必要ノ場合ニシテ常ニ破壞ヲ行スヘカラサルハ例ヘハ寺院又ハ公ノ建築物ニシテ敵軍ニ使用セラレ居テサル物若クハ使用ヲルヘキ地位ニ在ラサルカ如キ作戰上ニ何タル關係ナキ破壊トス而シテ軍隊ノ生存ニ必要ニシテ其亡滅又ハ降服ヲ避ケル爲メ必要ナル破壊ハ如何ナル場合ニ於テモ怨ムヘカラサルモ蓋ニシテ陸戰例規第二十三條ニ戰爭ノ必要上萬

已ムヲ得サルノ外ハ敵ノ財産ヲ破壞又ハ押收スルヲ禁スルノ規定アリ出ルル註ニ注意スヘキハ例ヘハ千八百十三年佛國軍ノ進撃ニ際シテ露國ハ莫斯科府ヲ燒燬シ和蘭國モ屢第十七世紀第十八世紀ニ於テ佛軍又ハ西班牙ヲ防禦スル爲メ水門ヲ開キ海水ヲ國內ニ入レタルカ如キ自國財産ニ對スル破壊ハ決シテ禁スル所ニ非ス隨テ敵國財産ニ對スル破壊ト自國財産ニ對スル破壊トノ間ニハ大ナル區別存在シ敵國財産ニ對シテ「ブルゼル」宣言第十五條乃至第十八條ニ之ヲ規定シ陸戰例規第二十五條乃至第二十八條ニ於テ防禦ナキ市府村落屠宅又ハ其他ノ遺物ヲ攻撃若クハ砲撃スルヲ禁シ攻擊軍ノ司令官ハ哨戒進撃ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其旨ヲ官廳ニ通告スル爲メ總テ其權内ニ屬スル手段ヲ盡スヘキモノトシ合圍及ヒ砲撃ニ於テハ宗教技術學術及ヒ慈善ノ爲メ設ケタル建造物並ニ病院其他病者負傷者收容所ハ其軍事上ノ目的ニ供セラレタルニ於テハ可成之ヲ避ケル爲メ必要ノ手段ヲ施スヘキコトトシ肉薄突進ヲ以テ陷レタル市府其他ノ地域ト雖モ掠奪ヲ行フコトヲ禁スト規定セリ

第五 無救命ノ宣言 第十七世紀以後ヨリシテ戰勝軍ハ戰敗者ニ對シ其生命

ヲ救助スルノ義務アルモノトセラレルニ至レリ小ナル城壘ニ據リ到底對抗ス  
 へカラサル大軍ニ向ヒ頑固ニ抵抗シ其進軍ヲ妨クルトキハ其生命ハ救助ス  
 カラストノ法則ハ古來行ハレ其理由ハ斯ル抵抗ハ無益ノ殺傷ヲ爲スニ過キス  
 ト云フニ在リ然ルニ世ノ進歩ト共ニ不完全ナル城壘ヲ堅ク守リタルノ故ヲ以  
 テ其生命ヲ救助セナルハ人情ニ反スルモノナルト同時ニ歴史ニ就テ觀ルモ小  
 軍ヲ以テ城壘ヲ固守スルハ無益ナル殺傷ニ非スシテ之カ爲メニ國家ノ運命ヲ  
 挽回シタルコト尠カラズ隨テ「アル」モ如何ナル場合ヲ問ハズ兵器ヲ捨テタル  
 敵人ハ有罪ナル者ヲ除クノ外殺戮スヘカラスト論シ方今ニ於テハ無救命ノ宣  
 言ヲ敵軍ニ對シテ爲スハ不法ト爲スニ至リ「アル」モ之ノ宣言並ニ陸戰例規ニ於  
 テモ其規定アリ但シ茲ニ所謂助命ノ恩典ヲ與フヘキモノトスルハ如何ナル場  
 合ニ於テモ其生命ヲ救助スヘシト云フニ非スシテ自國軍隊ノ事情ニ於テ之ヲ  
 救助スルハ軍隊ニ來スヘキ危險アリテ其危險ハ急激必要且至大ニシテ他  
 之ニ代フルノ方法ナク又手段ヲ擇フノ暇ナキ場合ニハ殺戮ヲ得ヘキ既ニ違  
 へタルカ如シ隨テ無救命ノ宣言ヲ禁スルハ斯ル非常ノ場合及復仇ニ出ル場

合ハ例外トシ豫メ敵人ヲ助命セタルノ宣言ヲ爲スヘカラスト云フニ過キス  
 前述ノ五種ノ方法ハ絶對的ニ禁止スル所ナレトモ詐略ヲ用フル間諜ヲ使用  
 スルトハ決シテ禁スル所ニ非ス左ニ之ヲ分説セシムルニ可キ  
 第六 詐略 平時國際公法ニ於テハ詐欺詐術ヲ禁スト雖モ戰時ニ於テハ互ニ  
 敵軍ノ缺點ト不幸トヲ利用スルモノナルニ由リ戰爭ニ詐略ヲ用フルハ禁スル  
 所ニ非ス陸戰例規ニ於テモ奇計並ニ敵情地勢偵察ノ爲メ必要手段ノ行使ハ適  
 當ナリト規定セリ故ニ戰爭ニ於テ敵軍ヲ詐リテ其發砲ヲ無効タラシメ又ハ敵  
 軍ヲ詐リ誘ヒテ降服セシムル如キハ禁スル所ニ非ス然レトモ戰爭ノ慣例トシ  
 テ特種ノ行爲又ハ徵號ハ特定ノ意義ヲ有シ戰國中兩軍ノ交通若クハ協議ニ必  
 要ノモノアリ此等ノ行爲又ハ徵號ヲ用ヒ敵軍ヲ欺クハ嚴禁スル所ニシテ軍隊  
 旗又ハ休戰旗ヲ濫用スルハ間諜ト看做サレ病院若クハ其附屬員ニシテ或ハ赤  
 十字旗ヲ他ノ建築物ニ附著シ又ハ赤十字符號ヲ病者負傷者ノ救護ニ從事セテ  
 ル者ノ携帶スル如キハ嚴罰セラルヘキモノトス  
 第七 間諜 間諜トハ「アル」モ之ノ宣言第十九條ニ定義セルカ如ク敵軍ニ通報

スルノ意思ヲ以テ交戰者ノ作戰地内ニ於テ穩密ニ行動シ若クハ虛妄ト曰實ヲ  
 構ヘテ各種ノ情報ヲ聚集シ若クハ聚集セントスル行爲ニシテ偵察又ハ斥候ノ  
 如ク戰爭ニ行ハルル普通方法トシテ敵情ヲ察知スルハ間諜ニ非ス故ニ軍服ヲ  
 着シ軍人タルコトヲ隱スコトナク敵ノ作戰地内ニ入りタル者又ハ軍人ト否ト  
 ヲ問ハス敵軍ニ信書ヲ傳達スル任務ヲ公然執行スル者又ハ自國軍隊間ノ使者  
 ニシテ誤リテ敵軍ニ入りタル者等ハ間諜ト看做ス能ハス總テ軍隊ニ於テ間諜  
 ヲ使用スルノ利益ハ作戰上大ナルヲ以テ古來之ヲ用ヒタルコト尠カラズ而シ  
 テ軍隊ニ於テ之ヲ用フルノ正否ニ付テハ議論アリタル所ニテ「バタル」ハ間諜ハ  
 正當ニ死刑ニ處スヘク以テ間諜ヨリ生ズル危害ヲ防クヲ必要トシ且ツ間諜ノ  
 任務ハ詐欺的ナルヲ以テ名譽ヲ重ンズル者ハ自ラ之ヲ承諾スヘキモノニ非ス  
 又交戰國ノ君主モ特別ノ場合ニ際シ避クヘカラサルニ非サレハ人民ニ對シテ  
 間諜ト爲ルコトヲ請求スルコト能ハスト説キタレトモ方今ニ於テハ交戰者カ  
 間諜ヲ使用スルハ國際公法上不法ニ非ス又歐洲ニ於テハ間諜ハ名譽アル職務  
 ト看做サレ居ラスシテ古來一般ニ賤ナルモノナレトモ間諜ニ二種アリテ

アレハ足ルモノニシテ其場所ヲ通過セントスルハ實際拿捕セラレルハ危險ア  
 ル兵備アレハ可ナルモノトス此故ニ封鎖ヲ行ヒタル海岸ノ情況潮流其他ノ事  
 情ニ依リ軍艦ハ必スシモ港ニ近ク在留スルノ必要ナク「タリミヤ」戰爭中英國カ  
 「ラガ」港ヲ封鎖シタルハ同港ヨリ百二十哩ヲ隔テタル「ライセル」ナルト海峽ニ軍  
 艦一艘ヲ置キテ之ヲ實行シタルハ其一例ナリ又封鎖ヲ有力ト爲ス爲メニハ場  
 所ニ依リ其港口ニ對シ陸上ヨリノ砲撃ヲ以テ軍艦ノ效力ヲ援テ得ヘク或ハ港  
 口ニ障害物ヲ沈没シテ封鎖ノ效果ヲ確メ得ヘシ千八百六十一年米國カ「チャ  
 レストン」及ヒ「サブアン」港ニ封鎖ヲ行ヒタルニ當リ船舶ヲ港口ニ沈メタルハ其  
 一例ナリ又封鎖ハ其場所ニ對シ中立國ノ商船ハ勿論軍艦ノ出入ヲモ禁スルヲ  
 通則トシ海上ノ交通ニ關シ他國一般ニ對シ重大ナル影響ヲ生ズルヲ以テ其封  
 鎖ヲ行フハ交戰國主權ノ行使ニシテ政府ノ直接ナル命令ニ依ルカ又ハ明示若  
 クハ默示ニテ之ヲ行フ權力ヲ委任セラレタル者ニ於テ前メテ實行シ得ヘク海  
 軍司令官ハ固ヨリ其職權内ニ於テ封鎖ヲ實行シ得ヘシト雖モ本國ヲ距ルコト  
 遠カラサルカ其他政府ヨリシテ特別ノ訓令ヲ受ケ得ヘキ場合ニ於テハ其訓令

國際公法(局外中) 本論 中立國人民ノ行爲ニ關スル權利義務 封鎖

ヲ得テ之ヲ行フヘク若シ作戦ノ必要上豫メ訓令ヲ得ザルトキハ國家ハ其行爲ヲ追認スヘク而シテ封鎖ハ交戦國カ其軍艦ヲ撤去シ又ハ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦カ敵國ノ爲メニ擊退セラレタルトキハ效力ヲ失ヒ更ニ又其場所ヲ封鎖ヲ行ヒ居ル交戦國ノ軍隊カ占領スルトキハ之ト同時ニ敵國權力ノ下ニ在ル土地ニ非ナルニ至ルカ故ニ封鎖ハ效力ヲ終了スルモノトス

第三款 封鎖ニ關スル制裁

封鎖ニ關シテ中立國船舶カ交戦者ノ爲メニ拿捕沒收セララルニ付テハ(第一)其封鎖ノ有效ナルモノナルコト(第二)其封鎖ヲ船舶カ知リシ居リタルコト(第三)其封鎖ヲ破リ若クハ破ラントスルノ行爲アルコトノ三要件ヲ具備セザルヘカラス就中封鎖ノ行ハレ居ル事實ヲ知リシ居リタルコトヲ必要トスル所以ハ凡ク封鎖ハ戰爭ニ必然伴フヘキモノニ非シテ交戦者カ任意ニ之ヲ行フモノナカカ故ニ之ヲ知ラザルトキハ固ヨリ中立國船舶ハ交戦國雙方ノ如何ナル港ニモ交通通商ヲ爲シ得ヘキヲ以テナリ而シテ封鎖ノ行ハレタル港内ニ在ル船舶ハ

其事實ヲ知了スルモノト看做シ之ニ反證ヲ許サザレトモ港外ヨリシテ港内ニ入ラントスル船舶ニ關シテハ英米兩國ニ於テ事實上ノ知了ト推定上ヲ知了ト區別シ事實上ヲ知了ト云フハ船舶カ其封鎖ノ場所ニ近クニ當リテ封鎖ヲ行ヒ居ル軍艦ヨリシテ封鎖ノ存在ヲ告知セラレ其船舶ノ航海簿ニ記入ヲ受ケ將來ニ向ヒテ之ヲ破ラザルヘキ宣告ヲ得タル後同一船舶カ其封鎖ヲ破ラント企テタルモノヲ罰シ場所ニ於テ同船舶カ其封鎖ヲ知了シ居ルコトヲ事實上ノ知了トシテ之ニ反證ヲ許サス之ニ反シテ推定上ノ知了トハ封鎖ノ事實カ顯著ニシテ商業航海者社會ニ確ニ知レ涉リタル場合ニ於テハ法廷ハ中立國船舶カ其封鎖ヲ知ラタルモノト推測シ又本國政府ヨリ封鎖ノ事實ヲ中立國政府ニ通知シタルトキハ同政府ハ其人民ノ利益ヲ保護スル爲メ直チニ之ヲ一般人民ニ告知スヘキカ故ニ其通知ヲ爲シタルヨリ相當ノ時日後ハ其通知ヲ受ケタル中立國人民ハ同封鎖ヲ知了スルモノト看做スモノニシテ斯ル場合ニ於テ中立國商船カ其封鎖ヲ破ラントスルニ當リ封鎖ノ事實ヲ知ラザリシトノ證明ヲ確實ニ爲サザル以上ハ總テ沒收セララルモノトス之ニ反シ佛國主義ニ於テ



ハ軍ニ事實上ノ知了ノミヲ認メ推定上ノ知了ヲ許サズシテ其理由トスル所ハ  
 凡テ封鎖ハ諸種ノ原因ニ依リ何時モ之ヲ解除セラルルカ故ニ中立國船舶ニ對  
 シテハ悉ク事實上ノ通告ヲ必要トシ交戦國ヨリ中立國政府ニ對スル通知ハ單  
 ニ好意ニ出ノ其通知ノ有無ハ法律上何等ノ效力ナキモノトスルニ在リ然レト  
 モ國際公法ノ法則トシテ封鎖ノ犯則ヲ組成スルニ付テハ單ニ船舶カ封鎖ヲ知  
 リ居タルコトヲ必要トシ如何ニシテ之ヲ知リタルヤハ問フ所ニ非ス又交通通  
 商ノ敏活ト爲リ來リタル今日ニ於テハ封鎖ノ事實ハ必スシモ各船舶カ封鎖ノ  
 場所ニ近クニ當リテ軍艦ヨリ通告ヲ受ケタルニ非テハ絕對的ニ之ヲ知ラザ  
 ルモノト看做スハ時勢ニ後レタル説ト云フヘキカ如シトモ事實上  
 封鎖ノ犯則ハ商船カ事實上其封鎖ヲ破リテ其場所ニ出入シタル場合ハ勿論其  
 封鎖ヲ破ラントスル航海ヲモ不法トスルカ故ニ之ヲ破ラントスル目的ヲ以テ  
 同港ニ向ヒ出發スルヤ否ヤ成立シ交戦者ハ其船舶カ出發スルヤ否ヤ海上ニ於  
 テ之ヲ捕獲シ得ヘキモノトス此點ニ關シテ佛國主義ト英國主義ノ間ニ於テ互  
 ニ異ナリタル大ナル影響ヲ有ス即チ佛國主義ニ依テハ其船舶カ軍艦ヨリ封鎖

ノ通告ヲ受ケタル以前ニ於テハ其港ニ近クモ其航海ヲ不法ト爲サザレトモ英  
 國主義ニ於テハ推定上ノ知了ヲ許スカ故ニ封鎖ノ事實カ知レ涉リ居ルトキハ  
 其出發スルヤ直チニ拿捕シ反證ノ立タサルモノハ之ヲ處罰シ得ヘシ而シテ凡  
 テ封鎖ハ其場所ト交通セシトスルノ航海ヲ犯則トスルカ故ニ之ヲ破ラントス  
 意思ヲ以テ出發スル時ニ成立シ同一航海中ハ繼續シ同船舶カ封鎖ヲ破ラタルト  
 キハ歸航中ニ於テモ拿捕セラルヘク出發港ニ復歸スルニ於テ亦同チ消滅シ其  
 以後ニ於ケル無事ナル航海ニ於テハ前犯則ノ故ヲ以テ處罰セラルルコトナシ  
 但其犯則ナル航海中ト雖モ封鎖ノ終了ト爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ハ解除  
 シ又封鎖ヲ破ルノ目的ニテ航海中本國軍艦其他艦フヘカラサル所ヨリシテ封  
 鎖終了ノ通知ヲ受ケタルトキハ繼令其通知ノ誤謬ナル場合ニ於テモ罰セラル  
 ルコトナク又航海中船舶カ其目的ヲ改メテ別ノ航路ヲ取リタルトキハ之ト同  
 時ニ解除シ更ニ又天災風浪糧食缺乏等ヲ爲メ避難ノ場合ニハ其積荷ニ變更ヲ  
 爲サタルヲ條件トシテ封鎖ノ港内ニ出入ノ許可ヲ得テ入港シ得ヘク又近來諸  
 國ハ條約ヲ以テ郵船ニ限リ港内ニ於テ商業ニ從事セザルノ條件ヲ以テ出入ヲ

許サレ又交戦者ニ封鎖ヲ實行ス際港内ニ於ケル中立國商船并立退以猶豫及與  
 スルコト行ハシ其封港實施以前ノ積荷ハ之ヲ以テ出港ヲ許スト雖モ其以後  
 搭載シタルモノニ離分前以テ買入レタルモノト雖モ之ヲ以テ出港スル能ハスレ  
 封鎖ノ犯則ニ對スル制裁ニ付キ第十八世紀ノ中頃迄ハ其人民ヲモ處刑シタル  
 コトアレトモ今日ニ於テハ更ニ船舶ヲ沒收スルニ止マルモノトス然レトモ同  
 一船舶内ニ於ケル犯則者ニ屬スル財產ハ悉ク沒收ストノ原則ニ基キ若シ其犯  
 則アル場合ニ於テ船舶所有者ニ屬スル物品ヲ搭載シ居タルトキハ其搭載品ヲ  
 モ均シク沒收シ又船長ハ荷主ノ代人ト看做サタルヲ當然トスト雖モ其船舶カ  
 出發以前ニ於テ到達地ノ封鎖ト爲リ居ル事實ノ明カナルトキハ荷主モ之ヲ知  
 了スルモノト看做サレ縱令船長カ航海中ニ方向ヲ變シテ之ニ向ヒタルトキト  
 雖モ荷主ノ爲メニシタリトノ推測ニ依リ荷主ハ其事實ヲ知ラザルコトヲ證明  
 セザルヘカラズモ今般ノ規則ニ立セバハ之ニ異議ナシトシテ之ニ依リ之ヲ  
 罰スルニ可キ也

第四節 戰時禁制品

第一款 戰時禁制品ノ性質

中立國人民ハ戰爭中交戦國雙方ト如何ナル物品ト雖モ其商業ヲ爲シ能ハサル  
 ノ義務ナシ然レトモ交戦者ハ古來一般ニ認メラレタル權利トシテ戰國ニ直接  
 ニ使用セラレ且其物品ノ性質上戰國ニ必要ナル物品ヲ敵國ニ輸入スル者アレ  
 トキハ之ヲ海上ニ於テ捕獲スルヲ得ヘク斯ル物品ヲ戰時禁制品ト稱ス此故ニ  
 中立國人民カ戰時禁制品ヲ交戦國ニ對シテ賣却スルハ妨ナシト雖モ之ヲ運搬  
 スルトキハ對手者タル他ノ一方ノ交戦國ニ依リ海上ノ捕獲ヲ受クルコトアル  
 ヘキ危險ヲ見ルモノトス之ヲ要スルニ戰時禁制品ノ犯則ニ於テ(第一)中立國人民カ  
 之ヲ賣却スルニ非シテ單ニ交戦國ニ運搬スルノ行爲ニ於テ(第二)其犯則ヲ  
 成立スルニハ其物品到達先ノ交戦國若クハ交戦者ナルヲ必要トス詳言セバ其  
 到達先ノ交戦國ナルトキハ戰時禁制品ノ犯則タルコト疑ナシト雖モ必スシモ  
 直接ニ交戦國ノ領土ニ運搬スルノ航海ニ限ラズシテ公海又ハ中立國港内ニ在  
 ル交戦國軍艦ニ供給スルモノナルトキ又ハ中立國ニ於ケル交戦國ノ軍艦ニ供

給スルモノナルトキハ均シク戰時禁制品ノ犯則ヲ成立スルニミナラス中立國ニ向ヒテ航海スル場合ニ於テモ其航海ハ單ニ中立港ニ寄港スルニ過キスシテ實際其搭載品ヲ交戦國又ハ交戦者ニ引渡スル目的トスルトキハ連續航海ノ法則ニ依リ犯則ト爲ルモノトス(第三)戰時禁制品ノ犯則ハ交戦者ナル到達先ニ向ヒテ船舶カ同物品ヲ積込ニ出發スルヤ否ヤ成立シ其運搬ノ航海中對敵國ハ之ヲ捕獲シ得ヘシト雖モ其物品ヲ到達先ニ引渡シタルト同時ニ解除ト爲ルモノトス何トナレハ元來戰時禁制品ヲ交戦者ニ運搬スルハ對敵國ニ於テ之ヲ捕獲シ得ルノ權利アルニ止マリ中立國人民カ其捕獲ノ危險ヲ冒シテ其物品ヲ賣却スルコトハ爲スヘカラザルニ非ザルヲ以テナリ加之其運搬ノ航海中到達地カ中立港ト變シタルトキ又ハ敵國ニ降服シ若クハ割讓其他ニ由リテ中立地ト爲ルトキハ之ト同時ニ其犯則ノ終了スヘキハ勿論ナリ

連續航海ノ法則トシテ千七百五十六年戰爭ノ法則ヨリ發生シ千七百五十六年英佛戰爭中佛國ハ殖民地貿易ヲ和蘭國ノ商船ニ許可シタルニ當時殖民地貿易ハ各本國ニ於テ之ヲ獨占シタルヲ以テ平時ニ於テ敵國ニ固有ノ商業ニ從事スル

縱令專賣權所有者ハ之ニ因リテ巨利ヲ得ルモ社會ヨリ之ヲ奪フニ非ザルナリ何トナレハ專賣權所有者ハ其發明ニ依リ新規ナル財貨ヲ生産シ若クハ財貨ノ生産ニ新方法ヲ用フルニ過キス社會ヲ強制シテ其生産品ヲ買ハシムルモノニ非ザレハナリ且專賣特許ノ制度ハ發明ヲ獎勵スルモノニシテ一時發明者ノ利益ヲ得ル如シト雖モ結局其恩惠ハ社會全般ニ及ブモノトス然レトモ專賣權ハ永久付與スヘキモノニ非ス相當ノ年限ヲ定メ發明獎勵ノ目的ヲ害セザル限リ之ヲ短縮スヘキモノトス企業者カ其才能ニ依リテ獲得スル利潤ニ至リテハ批難スヘキ點ナク其原因生産費ノ減少ニ在ルトキハ殊ニ然リトス即チ此場合ニハ財貨ノ代價ハ増加スルコトナク却テ低落スルモノトス又時運ノ爲メニ利潤ヲ生スルコト雖ニ述ベタルカ如シト雖モ亦時運ノ爲メニ損失ヲ來スコトアルヲ免レザルナリ之ヲ要スルニ企業者ハ危險ヲ冒シ一切ノ責任ヲ負ヒ以テ生産ヲ行フモノニシテ結局社會全般ニ利益ヲ與フルモノナルカ故ニ企業者トシテ利潤ヲ得ルハ當然ノ事ナリトス

### 第三節 利潤ト他ノ所得トノ關係

蓋ニ述ヘタルカ如ク利潤ハ生産物ノ賣上高ヨリ生産ニ要セル諸種ノ費用ヲ控除セルモノナルカ故ニ此等ノ費用大ナレハ利潤少ク此等ノ費用少ケレハ利潤大ナルノ理ナリ而シテ地代利息賃銀ハ此等ノ費用ノ大部分ヲ占ムルモノナルカ故ニ少シク其關係ヲ述ヘン

生産物ノ代價騰貴スルニ當リ企業者カ土地所有者ニ支拂フ地代變更スルコトヲタシム企業者ノ利潤ハ増加スルモノトス故ニ生産物ノ代價ノ騰貴ニシテ永續スルトキハ其土地ヲ借ラントスル企業者増加シ競争ノ結果地代モ亦騰貴スルヲ以テ利潤ハ減少シテ從前ノ割合ニ復歸スルノ傾向アルモノトス

次ニ利息トノ關係ヲ觀ルニ例ヘハ一萬圓ノ借入資本ニ對シ年八分ノ利息ヲ支拂セタルニ利率低著シテ年五分ト爲ルニ於テ即チ一年三百圓ノ費用ヲ減少スル所以ニシテ生産物ノ代價變動スルコトヲナクシテ其金額ハ利潤ト爲ルモノトス之ニ反シテ利率上騰スルニ其ニ生産物ノ代價モ亦之ニ應ジテ騰貴スル

コトナクシハ利潤ハ減少セザルヲ得サルナリ是ヲ以テ利潤ノ多少ハ資本ニ對スル需要ヲ増減シテ利率ノ高低ヲ來スト共ニ利率ノ高低ハ又利潤ノ増減ニ影響ヲ及ホシ以テ企業ノ伸縮ヲ來スト力アルモノトス故ニ平日利率ノ低キ國ト高キ國トヲ比較セハ前者ノ企業者ハ後者ノ企業者ニ對シテ一大便益ヲ占ムモノト謂フヘシ

終ニ賃銀トノ關係ヲ觀ルニ數多ク企業ニ於テハ賃銀ハ生産費ノ一大部分ヲ構成スルモノニシテ企業者ハ成ルヘク其低キヲ欲シ勞動者ハ成ルヘク其高キヲ望ムカ故ニ利害相異ナリ隨テ軋轢衝突ノ現象ヲ生ズルニ至ルナリ而シテ賃銀ニ述ヘタルカ如ク賃銀ト勞動費トハ必スシモ同一ナラス企業者ノ利潤カ勞動者ノ賃銀ト共ニ増加スルコトアルヲ疑ナシト雖モ同一ノ割合ヲ得ルコト甚ク難シトス是レ即チ所謂社會問題ノ起ル一原因タラスンハ非ス

### 第五編 財貨ノ消費

#### 第一章 消費ノ意義及ヒ種類

### 第一節 消費ノ意義

人ハ物體ノ一分子タモ創造シ能ハサルト共ニ亦一分子タモ之ヲ消滅セシムルヲ得サルナリ故ニ財貨ノ生産カ財貨ヲシテ效用ヲ生セシメ又ハ效用ヲ増加セシムルノ謂ナルカ如ク財貨ノ消費ハ財貨ヲシテ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失ハシムルヲ謂フナリ

財貨カ其效用ヲ失フニハ種種ノ原因アリ例ヘハ流行ニ後レタル帽子昨年ノ曆ノ如キハ毫モ物質上變更スル所ナクシテ其效用ヲ減損セルナリ是レ蓋シ此等ノ財貨ニ對スル欲望即チ人類ノ思想上ニ變化ヲ生セルニ由ルモノニシテ二三ノ經濟學者ハ之ヲ稱シテ思想上ノ消費ト云フ然レトモ此ノ如キ原因ヨリ生スル效用ノ減損若クハ滅失ヲ消費ト名クルトキハ物價ノ高低ヲ或ハ生産或ハ消費ト稱セサルヲ得ナルニ至ル故ニ主觀的ノ原因ニ因リテ財貨カ效用ヲ失フハ通常之ヲ消費ト看做ササルナリ

財貨ハ風雨水火等ノ爲メニ其效用ヲ失フコトアリ例ヘハ火災ノ爲メニ家屋ヲ

燒失シ洪水ノ爲メニ田畝ヲ荒廢ニ歸セシムルカ如キ是ナリ此ノ如キ原因ニ因リ財貨ヲシテ其效用ヲ失ハシムルハ一箇人ニ對シ又社會全般ニ對シ雖然然ルモ損害タルヲ以テ各種ノ手段方法ニ依リ或ハ之ヲ豫防シ或ハ損害ヲ輕減セルコトヲ圖ラサルヘカラサルナリ風雨水火等ノ爲メニ財貨カ其效用ヲ失フヲ自然的消費ト名クル者アリト雖モ吾人ハ之ヲ消費ノ範圍ニ置カサルナリ

又他ノ財貨ヲ生産スルカ爲メニ一ノ財貨ヲ使用スルヲ名ケテ生産的消費ト云フ者アリ例ヘハ綿糸ヲ製造スルカ爲メニ棉花ヲ用ヒ紡績器械ヲ運轉スルカ如キ是ナリ棉花ハ化シテ綿糸ト爲ルカ故ニ棉花タルノ效用ヲ失ヒ紡績器械ハ運轉ノ際多少ノ摩損ヲ來スカ故ニ是レ亦絶エズ其效用ノ一部ヲ減スルモノトス若シ夫レ消費ナル語ヲ廣義ニ解スルトキハ是レ亦一種ノ消費ナリト雖モ吾人ノ所謂消費ハ之ヲ包含セサルナリ

吾人ノ所謂消費ナルモノハ人カ其欲望ヲ満足スルノ目的ヲ以テ財貨ヲ使用シ之カ爲メニ財貨カ其效用ノ一部若クハ全部ヲ失フコト是ナリ例ヘハ衣服ヲ著シ米肉ヲ食シ家屋ニ住スルカ如キヲ謂フ而シテ財貨ヲシテ效用ヲ失ハシムル

ハ決シテ之ヲ冀望スルニ非ス自然ノ法則止已ムラ得ザルニ出ツルモノトス故  
 ニ人ノ消費ヲ爲スヤ成ルヘク效用ヲ減失ヲ少クシテ以テ其欲望ヲ満足スル  
 トラ努ムルナリ  
 抑モ人ノ孜孜營營トシテ財貨ノ生産ニ從事スル所以ノモノハ何ソヤ他日之ヲ  
 消費ニ供スルカ爲メニ外ナラサルナリ之ヲ換言スレバ人ノ生産スルカ爲メニ  
 生活スルニ非ス生活スルカ爲メニ生産スルナリ故ニ消費ハ經濟的動作ノ目的  
 ニシテ生産交易及ヒ分配ハ畢竟之カ手段通路タルニ過キス消費カ其數量及ヒ  
 種類ニ於テ増加シ其性質ニ於テ進歩スルハ一箇人ノ場合ニ於テモ又一國ノ場  
 合ニ於テモ其繁榮ノ上進ヲ示スモノトス  
 然レトモ消費モ一定ノ程度ヲ超ユヘカラス若シ夫レ消費シテ増加シテ生産之  
 ニ伴ハサルトキハ資本タルヘキ財貨ノ減少ヲ來シ遂ニ社會ノ發達文化ヲ進歩  
 ヲ妨クルニ至ルヘキナリ故ニ消費ヲシテ間斷ナク増加上進セシムント欲セハ  
 消費ニ多少ノ制限ヲ加ヘサルヘカラス一箇人ニ就テ之ヲ見レバ一箇年ノ所得  
 ヲ以テ悉ク衣食住等ノ消費ニ供スルトキハ毫モ其資産ヲ増加スルハ得ザリ

レトモ其所得ノ一部ヲ貯蓄シテ資本ト爲ストキハ翌年ハ之カ爲メニ所得増加  
 シ隨テ消費ヲモ上進セシムルコトヲ得ルナリ一國ニ於テモ亦然リ國民貯蓄ノ  
 精神ニ富ミ資本ノ増殖盛ナルニ於テハ全般ノ生産大ニ振興シ隨テ全般ノ消費  
 モ亦上進スヘキナリ是ヲ以テ貯蓄ナルモノハ現在消費スヘキモノヲ消費セス  
 シテ之ヲ將來ニ遺シ之カ報酬トシテ後日一層多額優等ノ消費ヲ爲ス所以ナリ

第二節 一家族ニ於ケル消費ノ種類

人ノ欲望ハ千起萬狀ニシテ先天的の必然ノ欲望ハ自ラ其數ニ限アリト雖モ後天  
 的ニ發生スルモノニ至リテハ文化ノ進歩スルニ隨ヒ漸次増加シテ殆ト底止ス  
 ル所ナキナリ而シテ現今ノ社會ニ於テ人カ消費ニ供スル財貨ハ多クハ他人ノ  
 生産ニ係ルモノナルカ故ニ之ヲ買入ルルコトヲ要シ隨テ人ノ消費ヲ爲スヤ其  
 數量種類共ニ所得ニ依リテ制限セラレルモノトス即チ一家族カ一箇年間ニ支  
 出スル經費ノ種目及ヒ其割合ハ所得ノ大小ニ隨ヒ其間ニ差異アルヲ見ルナリ  
 歐米諸國ニ於テハ社會階級ヲ代表スヘキ家族殊ニ勞働者ノ家族ニ就テ其所

得及ヒ經費ノ種目割合ヲ研究シ其結果ノ公ニセラレタルモノヲ少シトセズ今獨逸ニ於ケル數箇ノ實例ヲ舉ケテ參考ニ資センコトヲ其間ニ著シテ置ク

經費ノ種目	第一		第二		第三		第四		第五		第六	
	一箇年ノ所得千五百五十元	一箇年ノ所得千八百三十三元	一箇年ノ所得千九百八十五元	一箇年ノ所得二千二百元	一箇年ノ所得二千四百元	一箇年ノ所得二千五百元	一箇年ノ所得二千八百元	一箇年ノ所得三千元	一箇年ノ所得三千二百元	一箇年ノ所得三千五百元	一箇年ノ所得三千八百元	一箇年ノ所得四千元
食	七二四	六二四	五二四	三九四	二九四	二六四	二二四	一九四	一六四	一三九	一一四	九四
住居	六五五	七二七	五九三	二四〇	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四
衣服器具等	八四七	七五五	二二〇	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四	二四四
雜費及ト點燈	六三三	七〇七	三六六	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一
總計	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

此等ノ統計ニ徴スルニキハ下層ノ人民ハ僅ニ生活ニ必要ナル欲望ヲ満足シ得ルノミナリテ所謂文明ノ生活ニ伴フ他ノ高尚ナル欲望ヲ満足スルコト甚ク少キヲ知ルベキナリ

## 第二章 消費ト生産トノ關係

### 第一節 過剰生産

消費ト生産トハ密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ生産スヘキ財貨ノ種類及ヒ其數量ハ之カ消費ヲ標準トシテ適應セシメサルヘカラサルナリ隨テ生産ト消費トハ常ニ其間ニ權衡ヲ維持セントスル傾向ヲ有スルモノナリ隨テ實際生産ト消費トハ全ク相投合スルモノニ非ス一年間ニ生産セル財貨ハ其期間ノ消費ト爲ラニ生ヘル同種ノ財貨ノ缺乏ヲ補フモテ或ハ餘利アルコトアリ或ハ不足ナルコトアルヘキナリ蓋シ今日ノ經濟社會ノ如ク各種ノ生産力獨立ノ企業者ニ依リテ行ハルルニ於テハ各企業者ハ其生産スル財貨ノ消費額ヲ先見豫定スルコト甚ク難ク一ニ生産者及市場ノ情況ヲ精密ニ測定シテ需要ノ減少ヲ豫察シ其生産額ヲ減セルカ如キ場合ニ他ノ同業者ニシテ却テ其生産額擴張スル者アラニハ其用心注意ハ水泡ニ歸スヘキナリ是レ即チ所謂過剰生産ナルモノノ時時起ル所以ナリトス

過剰生産ハ絶對的ニ起ル場合ナキニ非ス例ヘハ交通不便ナル海濱ニ於テ非常ナル大漁アリタルトキノ如キ是ナリ然レトモ本節ニ述ヘント欲スルハ比較的ノ生産過剰ナリトス抑モ現今ノ社會ニ於テハ人生ノ欲望ヲ十分ニ満足シ能ハサルモノ甚タ多ク隨テ諸種ノ財貨カ其數量及ヒ種類ニ於テ今日ニ數倍スルモ若シ之カ代價ヲ大ニ低廉ニセハ忽チ消費セラレヘシト雖モ生産者カ相當ノ利潤ヲ獲得シ得ヘキ代價ヲ維持セントスルトキハ其生産物ノ一大部分ヲ買却シ能ハサルノ結果ヲ生スルコトアリ是レ即チ所謂過剰生産ナルモノニシテ要スルニ供給遙ニ需要ニ超過スルニ由ルモノトス

此過剰生産ハ一國生産ノ一部ニ止マリテ終ルコトアリト雖モ亦他ニ波及スルコトアリトス例ヘハ甲ナル工業ニ於テ過剰生産起ルトキハ其企業者ハ或ハ利潤ヲ減シ或ハ損失ヲ招クカ故ニ自己ノ消費ヲ縮小スルノミナラス労働者ノ賃銀ヲ低減シ又ハ労働者ヲ解雇スルコトアルヲ以テ此等ノ労働者ノ消費力モ亦減退スルモノトス此ノ如ク甲工業ノ企業者並ニ労働者ノ消費品ニ對スル需要減少スルカ故ニ此等ノ消費品ヲ生産スル乙丙丁等ノ工業モ亦過剰生産ニ陥リ

而シテ此等ノ工業ニシテ過剰生産ヲ感スルコト大ナルトキハ其企業者ハ甲工業ノ企業者ト同シク自己ノ消費ヲ減シ労働者ノ賃銀ヲ低クスル等ノ方法ヲ採ルカ故ニ其影響ハ更ニ他ノ生産業ニ及フニ至ルナリ

社會全般ニ亘ル過剰生産ナルモノナシトスル經濟學者少シトキス其說ニ曰ク人各其生産シタル財貨ヲ以テ他人ノ生産シタル財貨ニ交易スルモノナルカ故ニ自己ノ生産多クレハ他人ト交易シ得ヘキ財貨増加スルカ故ニ他人ノ財貨ニ對スル消費力増加スルモノトス例ヘハ甲乙互ニ其財貨ヲ交易スルニ當リ甲ノ生産増加センカ乙ノ財貨ニ對スル甲ノ需要必ス増加スヘシ何トナレハ其交易ニ供スヘキ財貨ヲ多ク有スレハナリ此時ニ當リ乙モ亦其生産ヲ増加シタリトセンカ乙亦甲ト交易スヘキ財貨ヲ多ク有スルカ故ニ甲ノ財貨ニ對スル需要モ亦増加スルナリ然ラハ則チ甲乙各自カ他ニ對スル需要増加スルヲ以テ交易ハ容易ニ行ハレ甲乙共ニ生産ノ過剰ヲ覺ユルコトナシト然レトモ更ニ丙ナル者アリテ甲乙ト交易スルモ甲ハ丙ノ生産物ヲ乙ハ甲ノ生産物ヲ而シテ丙ハ乙ノ生産物ヲ多ク得ンカ爲メニ多ク生産シタリト假定セハ三者間ノ需要供給適合



セナルカ故ニ各過剰生産ニ陥ルヘキナリ且之ヲ實際ニ徴スルニ殆ト總テノ生産業カ其生産物ノ代價下落ニ遭遇シテ互ニ過剰生産ニ苦ム場合アルヲ見ルナ

第二節 恐慌

暴ニ述ヘタルカ如ク生産ト消費トハ全ク相投合スルコト甚々難ク而シテ其不  
權衡ニシテ甚シカラサルニ於テハ自ラ調和スルコトヲ得レドモ過剰生産大ナル  
ルトキハ彼ノ恐慌ヲ惹起スルニ至ルナリ且ニ非但消費ニ對シテハ其需要ヲ  
「ロツシユル」曰ク恐慌トハ生産其量ニ過キ消費之ニ伴フコト能ハサルニ起因スル  
一國經濟上ノ病患ナリト又ヘルクナリ曰ク恐慌ハ通例生産ト購買力ヲ有スル  
需要トノ間ニ於ケル權衡ノ破レタルニ外ナラズト而シテ此恐慌ナルモノハ經  
濟社會ノ一部ニ起リテ多クハ他ノ部分ニ波及シ甚シキニ至リテハ數國ニ蔓延  
スルコトアリ我國ノ經濟社會ハ未タ急激ナル恐慌ノ襲來ヲ被ラズト雖モ歐米  
諸國ニ於ケル恐慌ハ枚擧ニ遑アラザルナリ而シテ恐慌直接ノ原因經過及其

結果ニ至リテハ相同シカラズト雖モ英國ニ起リタル恐慌ニ就テ之ヲ概言スル  
ハ左ニ述フルカ如キ順序ヲ踏ムモノ多シトス  
或年ニ於テ社會一部ノ人人世間ノ景氣好況ニ赴クモノト爲シ製造銀行鐵道等  
ノ事業ニ資本ヲ投スルハ必ズ多大ノ利潤ヲ占ムヘシト信スル者アルヲ見ルカ  
リ一部ノ人人此ノ如キ念慮ヲ抱クトキハ他ノ人人モ亦誘ハレテ同一ノ冀望ヲ  
生シ遂ニ世上ノ景氣益々有望ナリトノ思想ハ社會ノ全面ニ蔓延スルニ至ル是ニ  
於テ新發明ヲ應用シ新事業ヲ興スカ爲メニ會社ヲ發起スル者アルトキハ容易  
ニ株金ヲ募集シ得ルヲ以テ所謂投機者流ハ奇貨措クヘシト爲シ數多ク新事業  
ノ計畫ヲ發表シ而シテ或種類ノ株券ニシテ其價格騰貴スルトキハ他ノ株券モ  
亦早晚騰貴スヘシト信シ投機者流ノ發起セル會社モ忽チ株式式ノ應募者ヲ得ル  
ナリ此ノ如ク新事業新會社相踵テ起ルトキハ建築製造等ニ必要ナル材料ハ其  
代價騰貴シ勞動者モ亦勞動ノ需要増加ノ爲メニ賃銀昂騰シ其消費力膨脹スル  
カ爲メニ勞動者ヲ顧客トスル商人モ多大ノ利潤ヲ得ルナリ而シテ他ノ物品モ  
亦需要ノ増加ヲ豫想シテ商人類ニ買入ヲ爲スカ故ニ其代價ハ次第ニ上騰スル

モノトス然レトモ此ノ如キ状態ハ永久ニ繼續スルモノニ非ス株式ノ募集ニ應  
 シタル者ハ其拂込ヲ爲スカ爲メニ銀行ヨリ預金ヲ引出シ隨テ銀行ノ資本缺乏  
 ヲ來スニ當リ製造家商人又ハ投機者流ハ其事業ヲ擴張シ早ニ越テテ多大ノ利  
 潤ヲ得ントシ爲メニ銀行等ヨリ資本ヲ借入レントスルコト益々急ナルヲ故ニ金  
 融次第ニ逼迫ヲ告ケ金利隨テ上騰セサルヲ得サルナリ是ヨリ先キ投機者流ハ  
 多クハ種種ノ手段ヲ以テ巨額ノ資本ヲ借入レタルヲ以テ金利ノ上騰ハ此等ノ  
 輩ニ一大痛苦ヲ與フルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ投機者流ノ爲メニ手形ノ割  
 引等ヲ爲シタル資本主ハ漸ク其貸金ハ返済ヲ危ムノ念慮ヲ生スルニ至ル是  
 於テ投機者流ハ進退維谷ヲ遂ニ其所有ノ株券又ハ物品ヲ賣出ス者ヲ生シ而シ  
 テ事茲ニ至ルヤ他ノ投機者流モ價格ノ下落ヲ豫想シテ賣出一方ニ偏スルヲ以  
 テ忽チ物價暴落ノ趨勢ヲ促成スルナリ是ニ於テ投機者流ハ其損失ノ爲メニ債  
 務ヲ辨償スルコト能ハス途ニ累テ他人ニ及ホシ例ヘハ信用ヲ以テ物品ヲ賣込  
 ミタル製造家又ハ資金ヲ融通セル銀行モ亦非常ナル損失ヲ醸スナリ而シテ破  
 産者續續輩出スルニ及ヒテハ人人皆疑懼ノ念ヲ生シテ信用全ク地ヲ掃フニ至

ル是レ即チ恐慌ノ襲來セルモノニシテ世人ハ呆然爲ス所ヲ知ラス經濟社會ハ  
 忽チ寂寥タル景狀ヲ呈スルナリ此恐慌ノ爲メニ損害ヲ被ル者ハ管ニ企業者實  
 本家ノミナラス多數ノ労働者モ亦其職ヲ失ヒ糊口ニ窮スル者少カラストス而  
 シテ恐慌ノ後ニハ人人大ニ恐懼ノ念ヲ生シ縱令有望確實ノ事業ト雖モ進ミテ  
 之ヲ計畫スル者少キカ故ニ商工業大ニ不振ノ状態ニ陥リ所謂不景氣ノ嘆聲到  
 ル處ニ聞カサルナシ然レトモ兩三年ヲ過タルトキハ人人多少前年ノ慘狀ヲ忘  
 却シ且不景氣ノ際ニハ富有者モ自ラ節儉ヲ行ヒテ貯蓄増殖シ隨テ銀行ノ預金  
 等モ増加シ銀行モ此等ノ資本ヲ使用センカ爲メニ利率ヲ低クシ進ミテ割引貸  
 付ヲ爲スニ至ル是ニ於テ信用漸ク舊ニ復シ再ヒ好景氣ニ向ハントスル徵候ヲ  
 現ハスナリ

此ノ如ク經濟界ノ榮枯盛衰ハ自ラ循環變移スルモノニシテ時時恐慌ノ襲來ヲ  
 被ルハ殆ト免ルヘカラサルモノノ如シ而シテ第十八世紀ヨリ第十九世紀ニ至  
 リ歐洲ニ起レル恐慌ハ約十年ヲ隔テテ相踵ケルヲ以テジエヴォンスハ之カ原因  
 ヲ太陽熱度ノ變化ニ歸セシト雖モ其說タルヤ奇矯ニ失スルモノニシテ近時ニ

於テハ其循環期ハ不規則的ト爲レリ  
 社會主義ノ論者ハ今日ノ社會ニ行ハルル自由競争ト土地資本ノ私有制度ト以テ恐慌ノ原因ト爲シ若シ土地資本ノ私有制度ヲ廢シ個人ノ競争ヲ絶テ社會ノ人人協同シテ生産ニ從事スルトキハ生産ト消費トノ間ニ權衡ヲ失ハルコトナキカ故ニ恐慌ハ決シテ起ラスト爲スナリ然レトモ權ニ再三述ヘタルカ如ク土地資本ノ制度ヲ廢止スルニ到底實行シ得ヘキコトニ非サルナリ且今日ト雖モ恐慌ヲ豫防スル方法絶無ナルニ非ス近時歐米ノ經濟界ニ現出セル企業者組合ハ人爲的獨占ヲ爲シテ生産物ノ代價ヲ高カラシムル等ノ惡弊アリト雖モ箇箇獨立ノ企業者カ相互ノ競争ニ堪ヘズ自衛上相合同スルニ至レルモ亦少カラサルカ如シ其社會ニ及ホズ利害得失ニ至リテハ諸説紛紛未タ之カ判斷ヲ下スコト能ハスト雖モ要スルニ一種ノ財貨ノ生産ヲ一手ニ纏メントスルモノナルカ故ニ生産額ノ増減自ラ自在ニシテ若シ巧ニ生産ヲ伸縮セハ以テ過剰生産ヲ豫防スルコト必スシモ難カラサルナリ又過剰生産起リテ繼クニ恐慌ヲ以テモハ勞働者モ亦損害ヲ免レサルカ故ニ勞働者ノ組合モ往々過剰生産ニ對シ

據

テ豫防ノ手段ヲ採ルコトアリ例ヘハ千八百九十二年三月ニ當リ英國ノ坑夫組合ノ一大同盟罷工ヲ爲セルハ其目的主トシテ石炭ノ過剰生産ヲ防クニ在リシト云フ據ニ據キテ恐慌ノ原因ハ生産額ノ増減自ラ自在ニシテ若シ巧ニ生産ヲ伸縮セハ以テ過剰生産ヲ豫防スルコト必スシモ難カラサルナリ又過剰生産起リテ繼クニ恐慌ヲ以テモハ勞働者モ亦損害ヲ免レサルカ故ニ勞働者ノ組合モ往々過剰生産ニ對シ又據ニ述ヘタルカ如ク恐慌ノ來ルニ先テ社會ニ散ル企業心物與テ次テ投機的事業ノ旺盛ナルヲ見ルカリ而シテ多數ノ企業者ハ他人ノ資本ヲ使用スルモノナルカ故ニ利率ヲ低キニ自ラ企業ヲ獎勵シ其高キハ之ヲ抑制スルニ傾向スルコトヲ得ルナリ由來金利ノ高低ハ資本ノ需要供給ノ關係ニ由リテ定マルモノナリトモ一國金融界ノ權限ヲ掌握スル中央銀行ノ利率ハ或程度内ニ於テ一般ノ金融ニ影響ヲ及ホスモノニシテ中央銀行ノ利率上ルルニハ市場ノ利率亦上ル中央銀行ノ利率下ルルニハ市場ノ利率亦下ルモノトス故ニ此勢力ヲ利用シテ經濟界ノ變移ニ應ズルハ中央銀行ノ職責ナリトス即チ經濟界ノ好景氣一轉シテ投機の企業物與ノ微候現ハルルニ至ラザル中央銀行ハ時機ヲ失ヒテ十分ニ利率ヲ引上クテ企業者ニ警告ヲ與ヘ以テ資金需要ヲ緊縮ヲ促ササルヘカラス

是レ實ニ恐慌ヲ未發ニ鎮壓スルノ良策ニシテ若シ之ニ反シ撥機點ノ旺盛ナラントスルニ當リ中央銀行依然利息ノ低率ヲ繼續シテ増加セザル資金ノ需要ニ應ズルトキハ益撥機ヲ助長シ遂ニ恐慌ノ襲來ヲ見ルニ至ル而シテ中央銀行屬利率ヲ引上ケタルモ其效ナク恐慌遂ニ破綻スルニ及ヒテハ益利率ヲ引上ルト共ニ毫モ躊躇ノ色ヲ現ハサズ盛ニ割引貸付ノ依頼ニ應ゼサルヘカラス是レ蓋シ人心ヲ鎮撫スルノ秘訣カ別トス抑モ恐慌ノ襲來セルニ際シ人人ノ最モ苦慮スルハ即時ニ其債務ヲ果スコト能ハサルニ在リ若シ債權者ニシテ辨償ノ延期ヲ許諾セハ債務者ハ後日必ス其義務ヲ竭スノ資力ヲ有スルモ即時ニ之カ辨償ヲ請求セラレルニ於テハ遂ニ破産セザルヲ得ズル者少カラサルナリ故ニ此ノ如キ人人ハ利率ノ高低ニ關セズ目下ノ急ヲ救フカ爲メニ割引貸付ヲ請求スルモノナルヲ以テ中央銀行ニ一方ニ於テハ利率ヲ高メテ以テ需要ノ緊切ナラザルモノヲ退ケ他ノ一方ニ於テハ相當ノ手形擔保品ヲ提供スル者ニ對シ十分ニ資金ヲ融通スベシ然ラハ則チ人心自ラ靜穩ニ歸シ恐慌ヲシテ其極點ニ達セシメサルヲ得ヘキナリ而シテ恐慌ノ際市場ノ銀行カ割引貸付ヲ縮小シテ資金ノ回

收ヲ圖ルハ自衛上已ムヲ得スト雖モ中央銀行ハ獨リ狂瀾ノ上ニ巔然屹立スルヲ得ルカ故ニ右ニ述ベタルカ如キ方法ヲ以テ恐慌鎮撫ノ術ニ當ルハ中央銀行ノ職責ニシテ英獨等ノ中央銀行實ニ之カ適例ヲ示スナリ

第三章 人口論

第一節 「マルサス」ノ人口論

人口ノ多少増減ハ實ニ經濟上ノ問題ナルノミナラズ政事上軍事上等ニモ至大ノ關係ヲ有スル事項ナリトス然レトモマルサスノ人口論ハ主トシテ人類ノ養殖ト食物ノ増加トノ關係ヲ説明セルモノニシテ要スルニ消費ト生産トノ關係ニ外ナラサルヲ以テ茲ニ其要概ヲ述ヘント欲スルナリ

「トーマス、ロバート、マルサス」ハ英國ノ人千七百六十六年ヲ以テ生レ千八百三十四年ヲ以テ歿ス其著人口論ノ第一版ヲ刊行セルハ千七百九十八年ナリトス是ヨリ先キ英國ニ於テハ大規模ノ工業興リテ人民ノ都府ニ移住スルコトヲ促シ社會ノ狀態激變ノ際將來ニ對シテ空望ヲ抱ク者多ク隨テ此等ノ徒ハ漫ニ結婚

ヲ爲スノ風習ヲ爲セリ之ニ加フルニ貧民救助法ノ制限大ニ弛ミテ兒女ノ多ク  
 モノ殊ニ其恩惠ニ浴シ而シテ戰爭ト工場ノ設立ト人カヲ要スルコト多ク人  
 人皆人口ノ増殖ヲ冀望セルヲ以テ第十八世紀ノ後半期ニ於テ英國ノ人口ハ大  
 ニ増加シタレトモ食物ノ増加ハ之ニ隨伴セス殊ニ凶歉類ニ乘リ麵包ノ價大ニ  
 騰貴シ劣等ノ土地亦耕作セララルニ至レリ是ヲ以テ下層人民ノ多數ハ非常ノ  
 悲境ニ陥リ殊ニ都會ニ於テハ製造家等ノ富有ナル生活ニ對シテ懸隔ノ著シキ  
 ヲ示セリ「マルサス」ノ人口論ハ此ノ如キ狀態ヲ觀察セル結果ニ外ナラサルヲ以  
 テ其少シク極端ニ馳セルハ甚シバムヲ得サルナリ先ツ氏カ人口論ノ要概ヲ左  
 ニ述ヘシ

一 第一節 養育ノ手續

一 養育ノ手續ニ於テハ人口ノ増加ハ其ノ原因トシテ  
 現在ノ養育手段以上ニ蕃殖セントスルハ生物界共通ノ傾向ニシテ植物動物ノ  
 蕃殖力ハ其蕃殖ト養育手段ニ對スル競爭トニ依リテ始メテ制限セララルモノ  
 トス蓋シ自然ハ動物植物ニ非常ニ多數ノ種子ヲ與フルト同時ニ場所ト養育トヲ  
 給スルコト少シトス若シ此等ノ種子ニシテ自由ニ發達スルコトヲ得セシメバ  
 數千年間ニシテ數百萬ノ地球ニ充滿スルニ至ルヘシ而シテ動物植物ハ其子孫ニ

對シテ毫モ慮ル所ナキカ故ニ生殖ノ自由アルニ於テハ忽チ蕃殖シテ場所ト養  
 養トノ不足ノ爲メニ再ヒ其數ヲ減スルモノトス然ルニ人類ハ強力ナル生殖ノ  
 天性ヲ有スレトモ他ノ生物ト異ナリ理性ヲ備フルカ故ニ過度ノ蕃殖ヲ結果ヲ  
 豫知スルコトヲ得ルナリ而シテ人類若シ此理性ノ指導ニ從ハズ其養育ヲ顧ミ  
 スシテ漫ニ子孫ヲ産出スルトキハ自然ハ忽チ其法則ヲ行ハシムルモノトス故  
 ニ人類ハ其蕃殖上常ニ困難ヲ感スルモノニシテ此困難ハ或ハ災害ヲ以テ或ハ  
 災害ニ對スル恐怖ヲ以テ現ハレ要スルニ人類ヲ苦ムルモノナリ

然レトモ人口ハ其有スル食物以上ニ増加セントスル傾向ヲ有スルモノニシテ  
 北米合衆國ノ如ク歐洲諸國ニ比シ食物饒多風俗淳良早妨ヲ妨ルル原因少キ地  
 ニ於テハ二十五年以下ヲ以テ人口二倍スルコト百餘年間繼續セリ故ニ他ニ障  
 礙ナキニ於テハ人口ハ二十五年毎ニ二倍スルハ明確ナリトス

然ルニ食物ノ増加ハ人口ノ蕃殖ニ異ナリ百萬ノ人口カ二十五年間ニ二倍スル  
 ハ一千ノ人口カ二十五年間ニ二倍スルト毫モ異ナルナキニ反シ増加セル人口  
 ヲ養フベキ食物ハ同一ノ比例ヲ以テ増加スルモノニ非ズ耕作シ得ルキ土地ニ

シテ悉ク人ノ所有ニ歸スルトキハ食物年年ノ増加ハ土地ニ施ス改良ニ依ラズ  
 ルヘカラス而シテ改良ヨリ生スル收穫ノ増加ハ次第ニ減少スルモノトス今數  
 學ノ方式ヲ以テ人口ノ増加ト食物ノ増加トヲ表示スレバ左ノ如クニ  
 人口 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.  
 食物 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.  
 即チ二百年ヲ經過スルトキハ人口ト食物トハ二五六ト九トノ割合ト爲リ三百  
 年ノ終ニハ四〇九六ト十三トノ割合ト爲リ二千年ノ後ニハ其割合殆ト計算ス  
 ヘカラサルニ至ルナリ。其ノ人ノ苦シムルモノハ其ノ人口ノ増加ノ割合ニ比  
 食物ノ増加スルコト固ヨリ疑ナシト雖モ其増加ノ割合ハ人口増加ノ割合ニ比  
 シテ非常ノ差異アルコト右ノ如ク故ニ人口ハ殘酷ナル自然ノ法則ニ依リテ常  
 ニ食物増加ノ程度ニ引展サルモノトス而シテ自然ノ法則ノ現ハルルヤ種種  
 ノ形狀ヲ以テスレトモ之ヲ二種ニ別フコトヲ得即チ豫防的制限及ニ積極的制  
 限是ナリ豫防的制限ハ各箇人ノ自由行爲ニ依ルモノニシテ道德的ナルモノト  
 不道德的ナルモノトアリ例ヘバ殺兒墮胎娼妓ノ制度等ハ後者ニ屬シ克己早婚

ヲ爲ササルカ如キ是ナリ移住ノ如キハ前者ノ例トス又積極的制限ハ飢饉疫癘  
 戰爭其他貧困過度ノ勞働等死亡ヲ來シ人命ヲ短クスルモノヲ謂フナリ。  
 「マルサス」ハ更ニ其所説ヲ概括シテ曰ク第一人口ハ必ス食物ニ依リテ制限セラ  
 ルルモノトス第二他ニ有力ナル障礙ノ之ヲ妨クルナキニ於テハ人口ハ必ス食  
 物ノ増加ニ伴ヒテ蕃殖スルモノナリ第三豫防的又ハ積極的ニ人口ノ増殖ヲ妨  
 ケ以テ食物ノ存在額ニ適應セシムル障礙ハ皆克己邪行又ハ災厄ニ歸スルモノ  
 トス。其ノ人ノ苦シムルモノハ其ノ人口ノ増加ノ割合ニ比  
 「マルサス」カ人口論ハ其主旨トスル所約チ右ノ如ク而シテ「マルサス」ハ世界各國  
 ノ實例ヲ無數ニ蒐集シテ以テ自己ノ所説ヲ證明シ支那日本臺灣等ノ事情モ亦  
 之ヲ記述セリ。

### 第二節 「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之

#### カ批評

「マルサス」ノ人口論ニ對シテ第一ニ駁撃ヲ爲セルハ宗教家ナリトス蓋シ耶蘇教

ニ於テハ神ハ人類ニ幸福ヲ與フルモノトシテ經典ニ養殖シテ地球ニ充滿スルヲ  
ノ語アルヲ以テ其「マルサス」ノ人口論ト水炭相容レス宗教家カ「マルサス」ヲ攻讐  
セルハ怪シムニ足ラス然レトモ經典ノ趣意ニ反スルカ故ニ「マルサス」ノ人口論  
ハ謬レリト謂フヲ得サルナリ

第二ニ「マルサス」ニ反對スル者ハ曰ク腦髓及ヒ神經系ノ發達スルニ隨ヒ人類ノ  
生殖力ハ減退スルモノナルカ故ニ開化ニ進歩スルト共ニ人口ハ増殖ハ次第ニ  
其力ヲ減スルニ至リ現今ニ於テモ下層社會ニ兒女ニ富ムニ非サヤト是レ「ダレー」  
ペンター等ノ唱フル所ナリ今日上流社會ニ比較的兒女ノ少キハ主トシテ晚婚  
ノ多キト他ニ快樂ヲ取ル方法少カラサルニ因ルモノハニシテ佛國ニ於テ人口  
ハ増殖セザル主因ハ所謂二兒制ニ存シ決シテ佛人ノ生殖力衰ヘタルニ非ス要  
スルニ「ケレ」  
第三ニ「マルサス」カ人口ノ増加ヲ幾何的級數トシ食物ノ増加ヲ算術的級數ト爲  
セルヲ批難スル者少カラズ然レモ「マルサス」ニ單ニ二者増加ノ傾向ヲ示セルニ  
過キス「マルサス」カ言ヘルカ如ク人口ハ二十五年毎ニ増加セザレトモ二十五年

ノ二倍若クハ三倍以下ノ年數ヲ以テ二倍スルヲ見ルナリ左ニ之カ實例ヲ舉ゲ

國名	毎年増加ノ百分比	二倍スル年數
獨逸	〇・九三	約七十五年
英國	一二七	約五十五年
丁抹	一〇八	約六十五年
露西亞	一二三	約五十五年
佛蘭西	〇・一八	約三五〇年

日本 〇・一〇概算 約七〇〇年  
又食物殊ニ穀物カ算術的級數ヲ以テ増加スルヤ否ヤヲ觀ルニ穀物ノ收穫ハ人  
類ノ知識勤勉等ニ依リテ或ハ急激ニ進ムコトアルヘク或ハ長ク増加セザルコ  
トアルヘキヲ以テ數字ヲ以テ其増加ノ割合ヲ表示スルコトヲ得サルナリ然レ  
トモ同一ノ土地ニ就テ觀レハ報酬漸減ノ法則ナルモノアリテ收穫ノ増加ハ要  
スルニ遲緩ナリトス

以上述ブル所ヲ以テ之ヲ觀ルニ「マルサス」ノ人口論ハ多少事實ニ背キ極端ニ馳  
 スル點アリト雖モ大體ニ於テハ其理ト謂ハサルヘカラス現今ノ社會ニ於テ  
 モ人口ハ直接ニ食物ノミヲ爲メニ制限セラレサルモ間接ニ影響ヲ受クルコト  
 少カラス生計容易カレハ人口ヲ増殖多ク生計困難ナレハ増加ノ割合減少スル  
 モトトス例ヘハ千八百七十年七十二年ノ戰爭ニ際シ獨逸ニ於テハ生産及ヒ結  
 婚ノ數減少シ戰後産業勃興セルヲ兩者共ニ其數著シク増加セリト云フ  
 廣袤狹小ニシテ人口既ニ稠密ナル邦國ニ於テハ特ニ人口ト食物トノ關係ニ注  
 意スルコトヲ要シ我國ノ如キ亦其一タリ今ヤ我國ニ於テハ米ノ產出約四千萬  
 石ニ過キス歲少シク凶歉ナルハ忽チ外國米ノ輸入ヲ見ルナリ然レトモ佛國ノ  
 如ク二兒制ヲ以テ人口ノ蕃殖ヲ妨クヘキニ非ヌ一國ノ獨立ヲ維持シ殊ニ列國  
 ノ間ニ介在シテ一大國タルハ位置ヲ占メントスルニ非ズ人口實ニ之カ基礎タ  
 リ之ヲ古來ノ歷史ニ徵スルニ往昔ハ五十萬乃至二百萬人人口ヲ以テ世界ニ雄  
 飛スルコトヲ得タリ例ヘハ「ペルシヤ」ト戰ヒテ大勝ヲ得タル「アレキサン」ノ人口ハ  
 十五萬「ゲニヌ」カ地中海上ニ其勢力ヲ振ビタルトキハ其人口百三十萬和蘭最

モ隆盛ノ域ニ達シタルトキ其人口二百二十萬ニ過キス彼ノ「オーガスタス」カ四  
 海ヲ併吞シテ羅馬帝國ヲ建設スルヤ其人口ハ五千萬乃至六千萬タリシト云フ  
 第十九世紀ノ初ニ當リテモ一千萬乃至三千萬ノ人口ヲ有スルモノハ僅ニ大國  
 ノ班ニ列セリ然ルニ今日北米合衆國ハ七千萬露西亞ハ一億以上ノ人口ヲ有シ  
 一統計家ノ計算ニ據レハ千九百八十年ニハ英植民地ヲ含ム米二國ノ人口ハ各  
 四五億ニ上リ露西亞ノ人口ハ三億ニ達スヘシト即チ第二十世紀ノ終ニ於テハ  
 少クトモ一億ノ人口ヲ有スルニ非ザレハ大國ノ列ニ加ハルヲ得サルナリ而シ  
 テ日本ノ人口モ毎年一分ツツ増加スルモノトセハ千九百八十年ニ一億ニ達ス  
 ルヲ得ルナリ然レトモ此人口ハ何レノ地ニ於テ收容スヘキヤ今後更ニ版圖ノ  
 膨脹ナシトスレハ食物ノ供給ハ何レノ地ニ仰クヘキヤ是レ今日ニ於テ既ニ考  
 究スヘキ大問題ニシテ獨逸等モ亦此點ニ付キ大ニ苦心計畫スルアルヲ見ルナ  
 リ若シ夫レ之ヲ等閑ニ付シ豫メ之カ圖ヲ爲ササルニ於テハ他年必ス臍ヲ嚙ム  
 ノ悔アルヘキナリ

經濟學 終

和佛法律學校





經濟學 目次

第一章 緒論 ..... 一  
第二章 經濟學ナル名稱 ..... 一  
第三章 定義ノ說明 ..... 三

第一編 緒論

第一節 經濟學ナル名稱 ..... 一

第二節 定義 ..... 一

第三節 定義ノ說明 ..... 三

第二章 經濟學ノ分科

第一節 純正經濟學 ..... 一〇

第二節 應用經濟學 ..... 一〇

第三節 財政學 ..... 一五

第二編 財貨ノ生産

第一章 生産ノ意義、種類及ヒ要素 ..... 二三

第一節 生産ノ意義 ..... 二三

經濟學目次

經濟學目次

第一節

第二節

經濟學目次

第二節 生産ノ種類……………二四

第三節 生産ノ要素……………二五

第二章 自然……………二六

第一節 自然ノ意義及ヒ自然ノ狀況……………二六

第二節 報酬漸減ノ法則……………三〇

第三章 労働……………三三

第一節 労働ノ意義……………三三

第二節 労働ノ念慮……………三五

第三節 労働ノ能力……………三六

第四節 労働ノ分配及ヒ協同……………三八

第四章 資本……………四三

第一節 資本ノ意義及ヒ種類……………四三

第二節 生産資本ノ必要……………五一

第三節 生産資本ノ成立及ヒ増殖……………五三

第四節 機械……………五五

第五章 企業……………六〇

第一節 企業ノ意義及ヒ其必要……………六〇

第二節 單獨企業及ヒ共同企業……………六二

第三編 財貨ノ交易……………七〇

第一章 交易及ヒ價格ノ意義……………七〇

第一節 交易ノ意義……………七〇

第二節 價格ノ意義……………七三

第二章 代價……………七七

第一節 需要及ヒ供給……………七七

第二節 隨意ニ其數量ヲ増加シ能ハサル財貨ノ代價……………八〇

第三節 生産費ヲ増加セシメテ其數量ヲ増加シ得ヘキ財貨ノ代價……………八二

第四節 生産費ヲ増加スルニ非サレハ數量ヲ増加シ能……………八五

第三章 貨幣

ハタル財貨ノ代價

八五

第一節 貨幣ノ起源

八八

第二節 貨幣ノ職務及ヒ此職務ヲ盡スニ必要ナル條件

九二

第三節 貨幣制度

九八

第四節 貨幣ノ價格

一〇三

第五節 「ダレンシャム」ノ法則

一一二

第六節 單本位制兩本位制ノ沿革及ヒ其得失

一一七

第四章 紙幣及ヒ銀行券

紙幣及ヒ銀行券

一二四

第一節 不換紙幣

一二四

第二節 兌換紙幣

一二八

第三節 銀行券

一二九

第五章 信用取引及ヒ信用機關

信用取引及ヒ信用機關

一四〇

第一節 信用取引ノ意義及ヒ其種類

一四〇

第二節 手形

一四二

第三節 銀行

一四七

第四節 信用ノ利害

一六二

第六章 商業

商業

一六六

第一節 商業ノ意義及ヒ其利益

一六六

第二節 內國商業ニ對スル政策

一六七

第三節 外國貿易及ヒ外國貿易ニ對スル政策

一七〇

第七章 交通機關

交通機關

一七六

第一節 運輸機關

一七六

第二節 通信機關

一八二

第四編 財貨ノ分配

財貨ノ分配

一八四

第一章 分配ノ意義及ヒ所得ノ種類

分配ノ意義及ヒ所得ノ種類

一八四

第一節 分配ノ意義

一八五

第二節 所得ノ種類

一八八

第二章 地代……………二八八

第一節 地代ノ意義及ヒ其原理……………二八八

第二節 地代ノ原理ニ關スル反對ノ學說及ヒ事實……………二九〇

第三章 貨銀……………二九四

第一節 貨銀ノ意義……………二九四

第二節 貨銀ノ分類……………二九六

第三節 貨銀ノ高低スル理由……………二九六

第四節 職業ノ種類ニ依リ貨銀ニ差異スル所以……………二〇六

第五節 貨銀ト勞動費トノ差異……………二〇七

第四章 利息……………二〇七

第一節 利息ノ意義……………二〇七

第二節 利息ノ高低スル理由……………二〇八

第三節 利息低落ノ趨勢……………二〇四

第五章 利潤……………二〇六

第五編 利潤ノ意義……………二一六

第二節 純利潤……………二一八

第三節 利潤ト他ノ所得トノ關係……………二二二

第五編 財貨ノ消費……………二二三

第一章 消費ノ意義及ヒ種類……………二二三

第一節 消費ノ意義……………二二四

第二節 一家族ニ於ケル消費ノ種類……………二二七

第二章 消費ト生産トノ關係……………二二九

第一節 過利生産……………二二九

第二節 恐慌……………二三二

第三章 人口論……………二三九

第一節 「マルサス」ノ人口論……………二三九

第二節 「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之カ批評……………二四三

經濟學目次

第一章 緒論 一六

第二章 人口論 二二

第三章 消費 二五

第四章 儲蓄 二九

第五章 利息 三三

第六章 貨幣 三七

第七章 銀行 四一

第八章 保險 四五

第九章 稅收 四九

第十章 地租 五三

第十一章 勞務 五七

第十二章 工資 六一

第十三章 利潤 六五

第十四章 國家 六九

第十五章 社會 七三

第十六章 經濟學之範圍 七七

報

○民法施行前ニ於ケル養子ノ相續權  
 ○民法施行前ニ於ケル普通ノ養子ニ優ルモト爲レルカ如シ然  
 ○此區別ハ新民法ノ認メタル所ニシテ民法施行法第六十八條ニ於テ全ク民  
 法ノ規定ニ依ラシメタリ今之ニ關スル大審院ノ判例ヲ示サシメ、曰ク民法施行  
 前ニ在リテハ養嗣子ト養子ト並存スル場合ニ於テ養親ノ家督相續權ハ養子緣  
 組ノ先後ヲ同ハスルニ在リシコトハ本院判例ニ於テ是認シタル所ナ  
 リ然レトモ民法ニ於テハ養子ニ如上ノ種別アルコトヲ認識スルモノナ  
 民法施行法第六十八條ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組ニ雖モ其施  
 行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ズトノ明文アルヲ以テ假令民法施行前ニ  
 於テ養親ノ相續權ヲ附與セタル意思ヲ以テ養親ノ養子緣組ニ雖モ其養子ハ  
 民法施行後ニ於テハ民法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スルコトヲ得ヘキハ固ヨリ論  
 ヲ待タズトシ、(小審院明治三十六年六月九日第一四號民事判決書)

○第一審判決ノ取消ノ廢棄  
 第二審裁判所ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ  
 裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ廢棄若クハ變更ナル文字ヲ用フヘキヤ否ニ付キ  
 大審院判決シテ曰ク民事訴訟法中第三審裁判所カ第一審判決ヲ取消シ更ニ  
 其裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ取消ノ意義ヲ示ス用語ヲ限定シテ規定シテ規定ナラ  
 以テ第一審判決ヲ取消スニ方リ廢棄ナル文字ヲ用ユルモ同法中第三審院  
 シ而シテ訴訟手續ヲ取消ストキニ非テ廢棄ナル文字ヲ使用スルコトヲ得  
 スト云フ論者ノ如キハ同法第五百十條ニハ本案ノ判決ヲ取消スルコトヲ得  
 廢棄ナル文字ヲ使用セル例アリトテ看過シタルニ因ル懸斷ニシテ固ヨリ探  
 ルニ足ラス又同法第四百一條若クハ第四百二十條等ニ變更ナル文字アル本  
 案判決ヲ取消ス場合ニ之ヲ使用シテ云ク趣旨ヲ示スニ非スシテ當事者ノ  
 申立ナキモノトシテ訴訟ニ於テモ審理ヲ爲サスト云フ原則ヲ明ニシタルニ外ナラ  
 ス（大審院明治三十六年六月二十三日第一四號判決） 第三債務者ニ屬スル不動産差押ニ關スル訴 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請  
 求ニ對スル差押ニ在リテハ差押命令ヲ發スルト同時ニ目的物ノ債權者ノ委任

シタル執達吏(動産)ノ場合又ハ區裁判所ノ命令ニ保管人(不動産)ノ場合引  
 渡スヘキ命令ヲ發スヘキ民事訴訟法第六十四條乃至第六一六條第五九八條其  
 他金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テ  
 第三債務者カ引渡命令ニ應セザルトキハ右引渡命令ノ執行ニ對シテ直チニ訴ヲ  
 提起シテ其引渡ヲ要求スルコトヲ得ヘキカ將テ取立命令ヲ受ケ之ニ基キテ訴  
 求スヘキカ前述ノ如ク有體物引渡請求ノ差押ハ金錢債權ノ差押ニ關スル規定  
 ノ適用スヘキモノナルカ故ニ取立命令ヲ必要トスルニ似タリ第六〇  
 〇條是ヲ以テ東京控訴院判決曰ク不動産ノ請求權ニ對スル差押ニ付テ  
 ハ金錢債權ニ對スル強制執行ノ規定ヲ準用スヘキモノナルカ故ニ差押命令ヲ  
 發スルハ元々其所ナラシ然レトモ其取立ノ方法ニ至リテハ民事訴訟法第六百  
 十六條ニヨリ保管人ニ引渡ノ命令ヲ爲スヘキ特別ノ規定アリテ債權者ニ取立  
 權ヲ付與スル取立命令トモ同時ニ兩立スル能ハサルモノナラシ取立命令ハ之  
 ヲ準用スルノ限リニテラス若クハ第三債務者カ引渡命令ニ從リテ首ニ付ルコトキ  
 下ニモ訴ヲ以テ保管人ニ引渡スヘキ請求ヲ爲スヘキモノトス(二十五年十月

三十日首渡大審院之ヲ破毀シテ曰ク有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル  
 強制執行ハ民事訴訟法第六百十四條ノ規定ニ依リ同法第六百十五條第六百十  
 六條及ヒ第六百十七條ノ規定ヲ斟酌シ金錢ノ債權ニ對スル強制執行ニ於ケル  
 第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從フヘキモノモシテ其金錢ノ債權  
 差押ニ付テハ差押命令中ニ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スルコトヲ禁  
 又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命令ス可キモノ  
 ナレドモ有體物ノ請求ニ對スル強制執行ノ差押ニ至リ右等ノ禁止命令ニ依  
 フ以テ足レリトモ第六百十五條第一項若クハ第六百十六條第一項ノ規定ニ  
 依リ事項申立ニ因リ之ヲ命ゼザルヘカラス而シテ第三債務者則チ其義務ヲ履行  
 シ即チ其差押物ヲ提出スレハ爾後債務者ノ占有中ニ存スル財產ニ差押ヘタル  
 場合ト同一ニ其執行ヲ續行シ得ヘキモ若シ然ラズレバ債權者ハ第六百條第六  
 百十七條ノ規定ニ則リ代位ノ手續ヲ要セス以テ其債權ヲ取立テ得ル命令ヲ  
 受クルニ非ズレバ第六百十條ノ規定ニ依リ第三債務者ニ對シ差押ヲ起スル  
 トヲ得ズルモノトス（大審院明治三十三年六月五日第一二民事部判決引）

### ○生徒募集廣告

○入學試驗 來ル九月二日、八日、十月二日各午前八  
 時ヨリ施行ス

○第二 年級編入試驗 來ル九月十九日午後一時ヨリ  
 施行ス

右志願者ハ前日マテニ申込ムヘシ、校則入用ノ向ハ二錢郵券ヲ送  
 付スヘシ

八 月 和佛法律學校



# 法學志林

一部定價金十二錢 郵稅一錢  
十部前定價金共四十二錢  
郵稅共十一錢 十部前金郵  
稅共一圓

## 第四十六號

(八月十八日發行)

### 志林

- 最近判例批評(其十一) 法學博士 梅謙次郎
- 遺贈ノ義務ニ付テ 法學士 菅孫子勝
- 會計法ニ依ル保證金ノ性質 法學士 中山成太郎
- 取引所及ヒ取引新ニ於テスル取引ニ就テ 法學士 松本 蒸治
- 外國法人ニ就テ 法學博士 梅謙次郎
- 差替人ト商法第四百四十四條ニ依ル債權請求權 法學博士 富谷銑太郎
- 支拂擔當者ノ記載アル從替手形ト商法第四百七十二條トノ關係 法學士 山田雅之介
- 外國人ノ渡來ヲ禁止シ得ル權利ノ範圍ニ關スル現行法 法學士 谷野 格
- 通失箱ニ共犯ノ理由 法學士 無言 學人
- 廣州問題ニ關スル時論ニ就テ 法學士 佐々木松吾
- 京阪紀行

### 解疑

- 大審院新判例十九件

### 漫評

- 大審院新判例十九件

## 發行所 和佛法律學校

## 發行所 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)

明治三十六年八月二十日印刷  
 明治三十六年八月廿一日發行  
 (定價金貳拾五錢)

編輯者 萩原 敬之  
 發行所 東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮 山信好  
 印刷所 東京市牛込區牛込北町三番地

印刷所 金子 活版所  
 東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地

發行所 司法省 指定  
 東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

(明治二十二年十二月九日內務省許可)  
 (明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十九日五日六日八日十日十一日十三日十五日十六日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)